平成 29 年度文部科学省

「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築

平成 29 年度　成果報告書

2018 年 3 月

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

はじめに

本調査研究は、「平成 29 年度 教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」として、文部科学省より委託されたものです。

昨今、筆記試験では評価が困難な総合的な力（英語で話す力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテーション力、積極性など）を鍛えることが求められています。本事業で取り扱う即興型英語ディベートは、効果的なアクティブラーニングの一つでもあり、教育現場での活用が期待されます。提案の即興英語ディベートは、部活動などで特別に取り組む生徒のみを対象とするのではなく、一般の授業において導入できるよう設計、工夫された形式であることが特徴です。これまで全国 700 校以上への紹介をしてまいりました。次期学習指導要領における英語の新科目案には「論理・表現」が挙げられ、ディベートといった言語活動も示されています。授業内の 50 分で完結できる本即興型英語ディベートの形式は、そのような新しい科目にも対応できると考えられます。

一方、即興型英語ディベートの単発的な紹介活動は進んできているものの、教員自身が即興型英語ディベートを経験し、指導する力を身に着ける機会は限定的です。本事業では、神奈川県教育委員会と連携し、教員が公務として本格的に即興型英語ディベートを実践し、指導（教育的配慮を伴うジャッジ）する継続的な研修を実施するに至りました。教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組みとして、表彰と PDA 認定教育ジャッジの認定制度を構築しています。特に、認定試験自体が、アクティブラーニング型の実技であり、指導力に直結する内容であることが特徴です。

即興型英語ディベートは、日本では比較的新しい取り組みであるが故、その効果、面白さ、難しさ、また実践することによる達成感など、文字だけでは十分にお伝えすることが容易ではありません。本成果報告書では、研修会の様子をできるだけイメージしていただけるよう写真や参加された教員の声、アンケート結果とともに記載させていただきます。想像しづらい点などございましたら、遠慮なく弊協会までご指摘いただけましたら幸いです。

本調査研究および報告書作成にあたり、貴重なご意見、ご助言をくださりました教育委員会はじめ多くの教員、関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）
代表理事　中川 智皓

別紙様式2 企画の概要

【テーマ4】一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築」

目的・概要等

本事業では、アクティブラーニング形式である即興型英語ディベートに着目し、教員自身のディベート実践、生徒への指導（ジャッジ）方法の習得のための研修を開発する。また、教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組みとして、表彰と認定制度を構築する。

実施方法等

１．教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの提案、実施、調査

・複数回の研修会プログラム（教育委員会と連携した公務参加）

・単発研修プログラム（H28年度の成果を踏まえた改訂プログラムの提案）

２．教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築

・表彰：生徒のアクティブラーニングを促しつつ、指導に関わる自らの資質能力を高めるモチベーション向上のための表彰

・ＰＤＡ認定教育ジャッジ制度：認定試験自体がアクティブラーニングの要素を持ち、**指導力に直結**する資格制度

成果目標等

✓ 学校レベルに合わせた指導法の開発。各地の温度差を踏まえた調査、研修アプローチの提案。

✓ 生徒のディベート実践の場（交流大会や全国大会）を活用した表彰制度の確立。

✓ 認定教育ジャッジの制度の活用。
目標：１５名の受験。

目次

はじめに

1. 調査の概要

1・1　課題認識

1・2　調査研究の目的

1・3　調査研究の内容

1・4　調査研究体制

2. 調査研究の方法と結果

2・1　神奈川県教員研修会

2・1・1　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 1 回研究会　6 月 2 日

2・1・2　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 2 回研究会　7 月 14 日

2・1・3　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 3 回研究会　8 月 25 日

2・1・4　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 4 回研究会　9 月 15 日

2・1・5　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 5 回研究会　10 月 13 日

2・1・6　PDA 神奈川県高校生即興型英語ディベート交流大会　11 月 3 日

2・1・7　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 6 回研究会　11 月 24 日

2・2　群馬県教員研修会　10 月 20 日

第 1 回群馬県英語教育研究協議会「授業でできる即興型英語ディベート」

2・3　アンケート結果

3. 結果分析（考察）

3・1　神奈川県教員研修会における考察

3・1・1　神奈川県教育委員会 高校教育企画室 時乗 洋昭

神奈川県教育委員会における PDA と連携した英語教員の人材育成について

3・1・2　神奈川県立柏陽高等学校　校長　井坂　秀一

変容する力（PDA のお力を頼りにして）

3・1・3　神奈川県立柏陽高等学校　教諭　廣瀬　彩乃

Teach High-level English Communicatively

3・1・4　神奈川県立厚木高等学校　教諭　林　弘一

PDA 即興型英語ディベートの研修会・大会ジャッジに参加して感じたこと

3・1・5　神奈川県立横浜緑ケ丘高等学校　教諭　近藤 飛鳥

PDA 教員研修会から得たもの

3・2　有識者コメント

熊本県立八代高等学校・八代中学校　校長　山本　朝昭

即興型英語ディベート及び PDA 認定教育ジャッジ制度の有用性について

3・3　全体の考察

4. 提言

おわりに

1. 調査の概要

1・1　課題認識

技術進歩がめまぐるしく、社会の変化が速まる中、学校現場では時代に応じた形で、新しい課題に対する指導力が求められる。そこで、教員の資質能力の向上は、最も重要な課題の一つである。本調査研究では、昨今求められる筆記試験では評価が困難な多様で総合的なスキル（英語で話す力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテーション力、積極性など）を鍛える手法として**即興型の英語ディベート**を取り扱う。即興型英語ディベートは**アクティブラーニング形式**であり、次期学習指導要領案にある「論理・表現」などの新科目にも導入できることが期待され、授業での実践が少しずつ広がってきている。しかしながら、このような**新しい学習方法に対して十分な指導ができる教員がかなり少ない**のが現状の問題である。また、教員自身がアクティブラーニングとして即興型英語ディベートの経験をしたことがないことや、新たな課題に対する指導法を自己研鑽していくモチベーションが上がらないことも課題である。そこで、本調査研究では、教員に求められる新しい指導力の一つとして、**教員自身の即興で英語ディベートができる力を身に付ける研修、および教員が生徒にその指導が可能となる研修プログラム**を開発、実践する。

また、中教審第 184 号（答申）で述べられている「教員が学び続けるモチベーションを維持するため，教員の主体的な学びが適正に評価され，**学びによって得られた能力や専門性の成果が見える形で実感できる取組や制度構築**を進めることが必要である。」という点を踏まえ、**認定教育ジャッジの制度**をはじめとした、学び合い、高め合うモチベーションが上がり、継続する仕組みを提案する。

＜参考研究＞

文部科学省助成事業　高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」

テーマ：即興型英語ディベートを活用した統合型ルーブリック評価の研究

平成 25 年度～平成 27 年度

研究代表者：大阪府立大学　工学研究科　助教　中川智皓

平成 28 年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

実施テーマ「民間教育事業者の力を活用した教員の資質能力向上事業」

調査研究主題「即興型英語ディベートを用いた教員の研修プログラムの開発・実施」

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

1・2　調査研究の目的

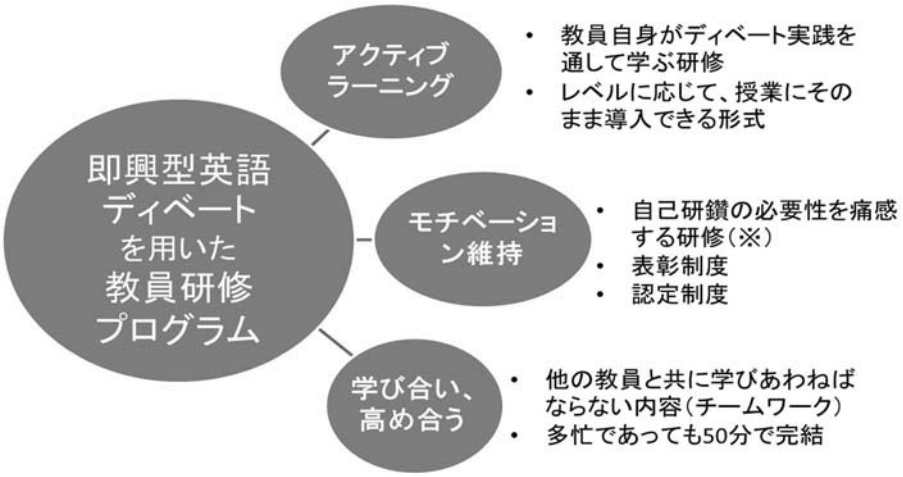
本調査研究では、近年学校現場で求められるアクティブラーニングの一つである即興型英語ディベート（※）の指導が可能となる研修プログラムを開発・実施すること、また主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度構築を行うことを目的とする。

※即興型英語ディベート（パーラメンタリーディベート）とは、一つの論題に対し、肯定と否定に分かれ、聴衆（ジャッジ）を説得させるパブリックスピーチ型のディベートである。論題は、社会、政治、環境、技術、国際問題など多岐にわたる。論題が発表されてから 15 分程度の短い準備時間の後、ディベートを開始する。ディベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければならないことがある。（一方、古くから日本で行われているディベートは、数週間から数か月、一年間同じ論題で証拠資料を収集し、試合でそれを読み上げて証明する「準備型」が主流であった。）世界では、教育現場にて即興型のディベートが広く導入されており、ブレア元首相など政治家をはじめ、多くの人々が即興型のディベートで培った力を活かし、グローバルに活躍されている。

なお、本調査研究で取り扱う「即興型英語ディベート」とは、学校の正規授業において十分に取り組めるよう、パーラメンタリーディベートの本質的な部分を抜粋し、簡潔にルール化したものである。課外活動等の特別な生徒のみが取り組める形式ではなく、一般の授業に落とし込めるよう「スピーチシート」「ブレストシート」「フローシート」「単語シート」などをシステム工学的に設計している。（参考：授業でできる即興型英語ディベート、中川智皓、2017、ネリーズ出版）

１．教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの提案、実施

２．教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築



(※自己研鑽のモチベーションを高めるとの回答が希望者研修でほぼ 100%、全員研修で 81%、N=232。平成 28 年度文科省事業　即興型英語ディベートを用いた教員の研修プログラムの開発・実施報告書より)

１．教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの提案、実施

・昨年度の文科省事業成果をもとに再構築した研修プログラムの提案、実施

＜ポイント＞

✓ 研修後、できるだけ早く授業で実践できるよう、授業導入に関する説明の強化。学校レベルに合わせた指導法の提案。

✓ 教育委員会や教員研修方法（希望者研修なのか、全員研修なのか）での温度差を踏まえた調査、研修アプローチの提案。

✓ 効果的な教員の資質能力育成のための連続的な研修会実施の可能性、効果、課題の調査。

２．教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築

・表彰

・PDA 認定教育ジャッジ（※）

＜ポイント＞

✓ 生徒のディベート実践の場（交流大会や全国大会）を活用した表彰制度の確立。

✓ 認定教育ジャッジの制度の活用。目標：１５名の受験。

※認定教育ジャッジとは、学校授業内で即興型英語ディベートの教育的な指導ができるジャッジである。

ディベート実践６回、ジャッジ実践６回の経験後、認定教育ジャッジ試験の受験を可能とする制度である。試験は、筆記試験、ディベート実技、ジャッジ実技の３項目からなる。

http://www.pdpda.org/pda-1

認定教育ジャッジ試験は、オンライン（カメラ、マイク付きＰＣ）で受験可能である。

提案の調査研究目的・概要

1・3　調査研究の内容

１．教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの提案、実施

研修方法１：複数回の研修会プログラム

教員が即興型英語ディベートを学び、効果的に資質能力を高めるには、複数回の研修プログラムが効果的である。しかし、多くの場合、教員は日々の業務で多忙なため、必ずしも複数回の研修プログラムが機能するとは限らない。一方、本調査研究では、神奈川県教育委員会との連携で、教員が公務として参加できる研修会（１回あたり２時間）の複数回プログラム（６回）の設定が可能となったため、プログラム内容の提案、実施、課題の調査を行う。

研修方法２：単発の研修会プログラムおよび研修導入に向けた調査

平成 28 年度の調査研究成果を踏まえ、教育委員会（群馬）と連携し、改訂した研修プログラムの提案、実施、調査を行う。昨年度調査研究の知見より、地域間でのアクティブラーニングに関する温度差や研修方法の違い（希望者研修、全員研修）などを総合的に踏まえて調査する。

２．教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築

✓　表彰

日常的な学校業務において、教員の主体的な学びが評価される、また高めあうために競うなどの機会はほとんどない。そこで、本調査研究では、生徒がディベートをする機会（交流大会や全国大会）を利用し、教員が生徒に指導（ジャッジ）する場を設ける。ディベート後に、教員が参加生徒一人一人へフィードバックする際の指導内容（励ましなどの教育的配慮も含む）について、参加生徒も評価し、その評価に応じて、上位の教員を表彰する。生徒のアクティブラーニングを促しつつ、指導に関わる自らの資質能力を高めるモチベーションにつなげる。

✓　PDA 認定教育ジャッジ制度

１の研修後、PDA 認定教育ジャッジ試験の受験を促す。本試験は、即興型英語ディベートの理解を確認する筆記試験のみならず、ディベート実技、ジャッジ実技があるアクティブラーニング型の試験である。試験自体がアクティブラーニングの要素を持つことが独特であり、ベテラン英語教員・英語科出身管理職からは「本内容は、英語力を測る従来の試験とは異なり、指導力に直結する資格である」とのコメントいただいている。

中教審第 184 号（答申）においても、「免許状更新講習の選択必修領域として主体的・協働的な学びの実現に関する事項を追加」の記載がなされており、アクティブラーニングの要素を取り入れた認定制度は**適正性**を有すると言える。

1・4　調査研究体制

実施体制		
所属部署・職名	氏　名	役割分担
代表理事	中川　智皓	全体指揮
ディベート推進委員	大賀　隆次ほか数名	研修会のマネージ、資料作成
事務局・事務局長	東芝　佳奈子	事務担当
アドバイザー	宮本　久也（全国高等学校校長協会会長）	教育界からの助言
アドバイザー	志賀　俊之（日産自動車副会長）	産業界からの助言

2. 調査研究の方法と結果

2・1 神奈川県教員研修会

神奈川県教育研修会では、全 6 回の研究会と 1 回の授業見学会、交流大会を行った。

2・1・2

平成 29 年度　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 1 回研究会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）

（文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時　2017 年 6 月 2 日（金）15:00~17:00

場所　神奈川県立横浜平沼高等学校

参加者　17 校 27 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 4、横浜緑ヶ丘 2、光陵 1、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 3、多摩 1、横須賀 2(1 名は数学)、平塚江南 0、鎌倉 1（国語）、湘南 2、小田原 2、茅ヶ崎北陵 2、相模原 2、厚木 1(社会)、大和 1）

平成 29 年度学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 1 回研究会において、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より本研修会の趣旨が説明されました。研修会では、主に即興型英語ディベートという手法を用いて、4 技能を高める授業を導入できるようにしていくこと、そしていかにジャッジをできるようになるかが重要である旨が述べられました。

次に、4 技能指導法研究グループの担当校長である横浜平沼高校の榊原校長より、学力向上進学重点校エントリー校（１７校）で、本研修が行われる旨や、以下の説明がなされました。１．グローバル教育研究ワーキングループでは、グローバル人材育成に取り組むが、PDA の即興型英語ディベートの形を取り入れ、授業に取り込めること、皆でできることを 17 校で共有しながら高めていきたい。２．昨年、PDA 神奈川県即興型英語ディベート交流大会に参加した生徒からは「必然的に即座に対応せねばならないことは、非常によかった」という声も出ており、平成 29 年度も継続していきたい。３．また文部科学省においては、大学入試改革、高大接続、高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能を適切に評価するために、評価テストの枠組みにおいて、民間業者により実施されている資格・検定試験を活用するとしており、大学受験に向けた学習も含めて 4 技能にフォーカスされたものととらえている。

その後、簡単に参加者 27 人の自己紹介が行われました。

教育委員会高校教育課　時乗先生のご挨拶

榊原校長による趣旨説明

PDA による研修では、代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科機械国学分野　助教）より、即興型英語ディベートのルール、それを通して身につく力、授業での導入方法および交流大会に向けての指導について簡単に説明がなされました。また、次期学習指導要領での新科目案「論理・表現」についてもふれ、今後ますます生徒が英語を話す環境が必要になることが述べられ、即興型英語ディベートの指導の重要性が指摘されました。授業において、教育的配慮を伴ったジャッジができる人材を PDA 認定教育ジャッジとして認定していく制度についても紹介されました。

ＰＤＡ代表理事　中川によるレクチャー

ディベート実践の様子

参加者によるディベート実践では、4 テーブルに分かれました。各テーブルには、PDA 認定教育ジャッジの講師がジャッジとしてつきました。内、2 テーブルはスカイプを通したジャッジです。論題“Convenience stores should be closed late at night.（コンビニの深夜営業はやめるべきだ。）”が発表されると、チームで一致団結して、議論を出し合っていくことができました。論点を２つにまとめ、その後、担当ごとにわかれ、それぞれの論点の詳細をスピーチシートに記入していきます。準備時間 15 分が終わるとすぐにディベートが始まります。ディベートでは、積極的にＰＯＩ（質疑応答）をするテーブルもありました。さまざまな意見が出たディベートでした。ディベート終了後には、対戦相手と握手を交わし、和やかに会話がなされました。最後に、ジャッジからの勝敗、その理由、個人コメントが行われました。心配していた教員からも、帰りには、楽しかったという声が寄せられました。

中川によるまとめのコメントでは、今日ははじめてで難しかった、うまくできなかったという先生方もいたかもしれないが、実践を繰り返すことで、もっとスムーズに議論をまとめられるようになる。この研修を通して継続した実践をすることでディベートに慣れることができ、落ち着いて取り組めるようになるので、今後もぜひ研修会にお越しいただきたいとのエールが送られました。

ディベート終了後の握手

ジャッジコメントの様子

2・1・2

平成 29 年度　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第３回研究会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）

（文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時　2017 年 7 月 14 日（金）15:00~17:00

場所　神奈川県立柏陽高等学校

参加者　15 校 24 名（横浜平沼 1、横浜緑ヶ丘 1、光陵 1、川和 1、柏陽 3、多摩 4、横須賀 1、平塚江南 1、鎌倉 1、湘南 2、小田原 2、茅ヶ崎北陵 1、相模原 3、厚木 1(社会)、大和 1）教育委員会 1

平成 29 年度学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第３回研究会において、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、柏陽高校の井坂校長先生より文科省からもこのような 4 技能活動の重要性が叫ばれており、ぜひみなさんの力で神奈川の教育を引っ張って下さいとの激励がありました。次に神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より実際の授業でどう生徒の技能を育てていくか、そういう視点を持って今回の講習に臨んで欲しい旨が述べられました。

柏陽高校　井坂校長先生の御挨拶

教育委員会高校教育課　時乗先生の説明

今回の PDA による研修では、代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科機械国学分野助教）がスカイプにて、今後の研修の流れを簡単に説明しました。

今回はジャッジの仕方について、ディベート実践の班とジャッジレクチャーを受ける班とに分かれ、実践的に学びました。

ジャッジ専門家によるレクチャー

ディベート実践の様子

参加者によるディベート実践では、最初の論題“We should abolish homework. （宿題を廃止すべきだ）” について、議論されました。3分という時間制約があるものの、自分たちのサイドはこれができるから良いんだという主張にとどまり、「どのような生徒がどうしてそうなるのか？」というメカニズムの説明、重要性の説明などの不足部分をジャッジが解説していきました。ラウンド2の論題は“Holding events and competitions for club activities on weekdays should be prohibited. （平日の部活動大会開催は禁止されるべきだ）”では反論の難しさを体感できたようです。ジャッジレクチャーでは、ディベート実践が始まるまでの準備時間中、基本的なジャッジのやり方、理論の講義を行いました。

全体的には今回が2回目の実践(初めての先生も5名いらっしゃいました)ということもあり、前回に比べると緊張感もとれ、ディベートを楽しんでいる先生も多く見られました。また、ディベートのルールだけでなく、スキルに関して質問する先生も増え、向上心を持って取り組む先生方が増えてきました。

ディベート終了後の握手

教員によるジャッジコメントの様子

最後に、教育委員会高校教育課の高橋指導主事より、生徒を成功に導くため、失敗させること、頭を真っ白にさせること、教員も経験することが大事です。とのお言葉をいただき、今回の研究会は終了しました。

教員の声（アンケートより抜粋）

・自分がやることで、生徒にどのようにやるのかイメージがわき、どのような点がむずかしいのかがわかった。
・やはり実践することによって、ほんの少しずつですが、上達すると思いました。
・（ジャッジの）ノウハウを説明してもらったことで、イメージが強くわいた。しかし、実際にやってみると難しく上手くいかなかったので、またリベンジしたい。
・多くの方々とアイデアを共有し、さまざまな気づきをすることができました。たくさんの失敗ができてよかったです。
・生徒へのサポートの心構えをもつことができた。
・来週の木曜日に１年生で初めて実施するので（３年生では既に実施済です）、今回の経験を活かしたいです。
・自分自身がディベータとジャッジを経験して、指導も受けられるので、生徒にも指導しやすくなる。
・緊張した・・・生徒の気持ちがわかりました・・・

---

7 月 14 日に選ばれたベストディベーターの皆さん

〈1 回目〉	〈２回目〉
[redacted]先生（平塚江南）	[redacted]先生（湘南）
[redacted]先生（横浜緑ヶ丘）	[redacted]先生（厚木）

2・1・3

平成 29 年度　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 3 回研究会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）

（文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時　2017 年 8 月 25 日（金）15:00~17:00

場所　神奈川県立横浜平沼高等学校

参加者　12 校 22 名（横浜平沼 3、横浜緑ヶ丘 2、光陵 1、柏陽 2、多摩 4、横須賀 3、平塚江南 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 1、厚木 1(社会)、大和 1）教育委員会 1

はじめに、神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より、実際の授業で使えることを前提にこの研修を役立てて、秋から始まる研究・公開授業でやってみる、または見学に行き役立ててほしいと述べられました。次に横浜平沼高校の榊原校長先生からは、生徒がバランスよく 4 技能が身についているかが大事であり、ここで学んだことを実践し、そこで出てきた課題を（各校に）持ち帰ってシェアしていくことの旨が述べられました。

教育委員会高校教育課　時乗先生の御挨拶

横浜平沼高校　榊原校長先生の御説明

今回スカイプによる PDA 代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科機械工学分野　助教）の講義では、ディベートにおける基本的な考え方【立論・反論】を示し、すぐ後の実際のディベート実践に即採り入れられるような流れにしました。

次に前回同様ジャッジの仕方について、ディベート実践の班とジャッジレクチャーを受ける班とに分かれ、実践的に学びました。

ジャッジスタッフのレクチャーを聞く様子

ディベート実践の様子

最初の論題は“Online shopping is better than going shopping. （インターネットでの買い物は実際に店に行って購入するより良い）” について、議論されました。議論に必要な立論の組み立て方法として、先ほどの講義で学んだ AREA（主張→理由→例→主張）を、実際にスピーチをする中で組み込んでいきました。
ラウンド２が始まる前に、２回目のショートレクチャーで反論の仕方を行いました。相手のスピーチの後の反論の仕方を学んだあと、引き続き “Idols(pop stars)should be prohibited from having romantic relationships.（日本のアイドルは恋愛禁止であるべきだ）”の論題で議論を交わしました。
またジャッジレクチャーでは、それぞれのディベート実践が始まるまでの準備時間中に、立論の組み立て方、反論方法の基本問題を解く形式で行いました。

３回目となる実践（初回参加の先生は３名いらっしゃいました）で、前回以上に緊張感もとれ、自信を持ってディベートをされる先生もおり、回を追うごとに成長されている様子が伺えました。また、今回は様々な学校の教員同士のチームワークも雰囲気良く、和やかな様子で各学校の取組についての建設的なお話などもされているのが印象的でした。

ディベート終了後の握手

教員によるジャッジコメントの様子

教育委員会高校教育課の横谷指導主事からは、全校で実施しているスピーキングテスト、ライティングテストでは生徒を評価する際は生徒にフィードバックをしてあげてほしい、その際に今回のジャッジ手法からも参考にしてくださいとの旨を述べられました。

次回は、9 月 15 日（金）ディベート・ジャッジ実践の他に福岡県立城南高等学校　英語教員の石橋由利江先生より、授業で行う即興型英語ディベートのマネージメント手法を講義していただきます。

教員の声（アンケートより抜粋）

・ディベートの考え方、どういうふうに反論するかの手順の資料、英単語などの資料も役立った。
・非常に有意義でした。自分の英語力のなさを感じました。
・ディベートは初めてやったのですが、楽しかったです。（来る前はとても不安だったのですが…）また、他の先生のレベルの高い、英語のスピーチをきけて、勉強になったし、刺激になりました。
・実際にやってみて、流れが分かりました。
・ジャッジに関しては、より多くの実践が不可欠だと思いました。
・ＡＲＥＡの概念が入るととてもやりやすくなりました。生徒の指導にも取り入れたいです。
・一通りディベートをきいて、ジャッジの仕方を体験することができました。
・だんだんと緊張することなくできるようになってきた。
・ディベートにおいて大事な観点（立論、反論）を学んだうえで、それを実践に移すという流れがよかった。

---

8 月 25 日に選ばれたベストディベーターの皆さん

〈1 回目〉	〈２回目〉
[redacted]先生（小田原）	[redacted]先生（平塚江南）
[redacted]先生（横浜平沼）	[redacted]先生（多摩）

2・1・4

平成 29 年度　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 4 回研究会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）

（文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時　2017 年 9 月 15 日（金）15:00~17:00

場所　神奈川県立横浜平沼高等学校

参加者　16 校 25 名（横浜平沼 3、横浜緑ヶ丘 2、光陵 1、希望ヶ丘 1 、川和 1 、柏陽 2、多摩 2、横須賀 2(数学 1)、鎌倉 1(国語)、湘南 2、平塚江南 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 3、厚木 1(社会)、大和 1）

はじめに、神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より、即興型英語ディベートをどのように授業に採り入れていくのがいいのか、各高校に合わせて考えていくことの旨が述べられました。次に横浜平沼高校の杉田副校長先生からは、「交流会に向けて、生徒たちと積極的にかかわっていただけると嬉しい」と英語でのスピーチをいただきました。

教育委員会高校教育課　時乗先生の御挨拶

横浜平沼高校　杉田副校長先生の御説明

今回の講義では、福岡県立城南高等学校より英語教諭の石橋由利江先生をお招きしました。即興型英語ディベートの授業導入および学習到達目標の設定からお話いただきました。SSH 指定を受けたものの英語での質疑応答に答えられないという問題意識から学校全体で即興型ディベートを採り入れるに至った経緯を話されました。

石橋先生によるご講義

熱心に城南高校のビデオを見る参加者

学校内での理解を得ながら徐々にディベート授業を広めてゆき、現在では全学年で全校全生徒にディベート授業を拡げられました。英語の授業で、各単元が終わるごとにそのトピックにまつわるディベートを行っておられます。

ジャッジスタッフのレクチャーを聞く様子

ディベート実践の様子

石橋先生のご講演のあとは、ディベート実践を行いました。Japan should introduce compulsory voting. 日本は強制投票制を導入すべきだ。という論題のもと、ディベートが始まりました。

今回の実践の中で、複数回ディベート経験を経た先生方はサインポストを提示し、スピーチする型はできてきました。

フローシートに相手の意見を書き込むといった作業がまだ定着していないこともあったため、スムーズな反論の流れに至っていないスピーチもみられました。次回への改善の課題となりました。

ディベート終了後の握手

ジャッジによるコメントの様子

教員の声（アンケートより抜粋）

・（ディベートを）定期テストに組み込むなどいろいろな場面で力を伸ばしていくことができることがわかりました。
・ジャッジ、ディベーターとして力をつけていけるように教員用でも定期的に練習会をしていきたいと思っています。
・全校の行事としてディベートをするのはとても素晴らしいと思いました。総合学習の時間などを有効活用するとよいと思った。
・とても興味を持って聞けました。具現化するための案もいくつかいただけたように思います。
・英語科としてＳＳＨにどう貢献するのか考えさせられました。
・（ディベートを授業にくみこむことの）デメリットが見当たらない…とおっしゃっていたのが印象的でした。まねできるようにがんばります。
・ディベートの考え方が学習態度（学ぼうとする態度）に大きく影響するということがよくわかってとても勉強になりました。
・授業で個人的にディベートをとりいれることはできるようになってきても、学年で、または学校として実践していくことができていないので、とても参考になりました。
・学校行事に取り入れてみたいと強く感じました。

---

9 月 15 日に選ばれたベストディベーターの皆さん

〈1 回目〉
[redacted]先生（横浜緑ヶ丘）
[redacted]先生（柏陽）

2・1・5

平成 29 年度　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 5 回研究会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）

（文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時　2017 年 10 月 13 日（金）15:00~17:00

場所　神奈川県立横浜平沼高等学校

参加者　13 校 19 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 2、横浜緑ヶ丘 1、柏陽 2、多摩 1、横須賀 2(数学 1)、鎌倉 1(国語)、湘南 2、平塚江南 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 2、厚木 1(社会)、大和 1）

はじめに、教育委員会高校教育課の横谷指導主事から、11 月 3 日に行われる交流大会直前の練習に向け、今日の研修会を各校生徒への指導につなげてくださいとのお言葉を頂戴しました。次に神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より、交流大会に向けた各校でディベート練習会が行われています。ディベート指導力向上のためＰＤＡ認定教育ジャッジへのチャレンジをしましょうとの旨が述べられました。最後に横浜平沼高校の杉田副校長先生からは、「異文化で自分の意見を言うこと、意見の違う人に敬意を払うことは大事です。言わないと意見がないと思われます。即興型英語ディベートは、そのようなことを鍛えられるので、今日も研修を役立てて下さい。」とのお話をいただきました。

杉田副校長のご挨拶

ＰＤＡ代表理事中川による説明

ＰＯＩの練習

今回の講義では、ＰＤＡ代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科）より、ＰＯＩおよび Reply スピーチのポイントについて説明がありました。また、ＰＤＡ認定教育ジャッジの試験受験に必要なディベート実践回数、ジャッジ実践回数について、上位者の発表がなされました。

ディベート実践の様子

ショートレクチャー後は、ディベート実践を２回行いました。Marrying at an older age is better than marrying young. （早婚よりも晩婚のほうがよい。）Ambulance services should be charged.（救急車の利用を有料化すべきである。）の２ラウンドでした。
継続して参加されている教員の中には、はじめてベストディベータ賞をとりましたという感想もあり、実践回数をこなすことにより、確実にディベートの理解が進み、力がついていることがうかがえました。

ディベート終了後は握手をして和やかな雰囲気に

教員の声（アンケートより抜粋）

・回を重ねるごとに形式がわかり、少しずつではありますが、自分に成長を感じられた。
・POI（質疑応答）やまとめ(Reply Speech)のポイントがわかった。
・生徒の気持ちがわかった。
・授業でどんどん実践していきます。
・子供に教えられれば…と思うと、もっと深く知らなければ、もっと話せるようにならなければ…と思いました。
・生徒の気持ちになって難しさを実感できました。
・初めて実践したので、ディベートがいかに難しいか、集中力が必要かわかりました。どのような工夫や指導をすれば、生徒が取り組みやすくなるかを考えていきたいと思いました。
・今後も、教育の研修会で続けていただければありがたいです。どちらかといえば、ジャッジの経験をもっとやりたかったです。
・学校に生徒の実践を見に来て頂きたい。授業や課外活動の時の指導をして頂きたい。
（今年でなくとも。あるいは実践例をもっと見たいです。）
今後、授業でディベートをとり入れたいと思った。ありがとうございました。
（1 回だけ行いましたが、予想以上に成果がありました。）

---

10 月 13 日に選ばれたベストディベーターの皆さん

〈1 回目〉	〈２回目〉
[redacted]先生（横浜翠嵐）	[redacted]先生（多摩）
[redacted]先生（相模原）	[redacted]先生（相模原）
[redacted]先生（横須賀）	[redacted]先生（柏陽）
[redacted]先生（厚木）	[redacted]先生（茅ヶ崎北陵）
[redacted]先生（多摩）	

2・1・6

平成 29 年度ＰＤＡ神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

文部科学省 平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

開催日時：2017 年 11 月 3 日（金）12:00-17:00
会場：神奈川県立横浜平沼高等学校
参加校：15 校（横浜平沼、横浜翠嵐、横浜緑ケ丘、光陵、大和、川和、柏陽、多摩、横須賀、鎌倉、湘南、小田原、茅ケ崎北稜、相模原、厚木）
参加者：生徒 102 名、教員 27 名
スタッフ：PDA スタッフ、東京大学、一橋大学、神奈川大学、立命館大学ほか
主催：神奈川県教育委員会、一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）
主管：学力向上進学重点校エントリー校連絡協議会　グローバル教育研究ワーキンググループ 4 技能指導法研究グループ
助成：公益財団法人　日本財団

開会式では、神奈川県教育委員会の横谷先生より、「今日はディベートを頑張ってください。チームメイトと論理的にアイデアを交わしてください。」などエールが送られました。会場校の榊原校長先生からは、「意見を即座に交わすよい機会です。よく聞いて、理解しあうこと。また、去年の交流大会とは違うところは、先生たちも研修会においてディベート、ジャッジの経験も積んでおり、教員のエキシビションディベートがあり、また本日もジャッジをする点です。」ということが述べられました。柏陽高校の井坂校長先生からは、「春から各学校の先生が即興型英語ディベートについて、研究・勉強をされてきた。生徒、教員がともに参加する本日を楽しみにしている。」と励ましのお言葉をいただきました。

次に、PDA 代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科助教）より、15 校の学校紹介があり、各校生徒が起立・一礼をし、交流に向けた挨拶となりました。ルールの復習、POI の確認を再度行いました。そして、早速 1 ラウンド目の対戦表が発表されました。

横谷先生（神奈川県教育委員会）

榊原校長（横浜平沼）

井坂校長（柏陽）

PDA 代表理事 中川による説明

第１ラウンドのお題は「***Japan should make voting compulsory.***（日本は投票を義務化すべきである。）」でした。ちょうど選挙があったためか、早速、盛り上がりがありました。肯定チーム否定チームともに準備時間に 2 つの論点をうまくまとめられていました。ラウンドでは、初対面での高校に果敢に POI をするチームもあり、白熱しました。先生方もジャッジに配置され、勝敗を決めるだけでなく、ディベート後の個人コメントでは有意義なフィードバックがなされ、教員・生徒ともに集中できるアクティブラーニングタイムとなりました。

スピーチシートを使って準備

積極的に話し、聞く

教員ジャッジによる勝敗説明

聴衆に訴えかけるスピーチ

続く第 2 ラウンドのお題は、「***Having a boyfriend or girlfriend is a waste of time for high school students.*** **(恋人を持つことは、高校生にとって時間の無駄だ。)**」でした。高校生ならではの意見が出ました。また、少し緊張も和らぎ、1 回目よりもより大きな声でディベートをすることができました。教員によるジャッジでは、研修会での成果が発揮され、生徒に対して落ち着いて堂々とコメントがなされていました。また、ディベートが終わったあとに、他校を含めた生徒同士の会話もはずみ、さらなる交流が行われました。

POI（質疑応答）①

POI（質疑応答）②

POI（質疑応答）③

ジャッジのコメントも真剣に聞く

ディベート後は必ず対戦相手と握手

ディベート後にもコミュニケーション

次に、教員エキシビションディベートでは、「*We should outsource coaching of club activities.* **(クラブ活動の指導を外注すべきだ。)**」でした。今回、教員エキシビションディベータは、研修会への参加、またそこでのベストディベータへの選出、校長の推薦などから選出されました。たくさんの生徒、教員が見守る中、エキシビションに選ばれた６名（英語科５名、社会科１名）の教員がユーモアのある素晴らしいディベートを繰り広げました。論題が、まさに教員にとって普段話題の一つとなる内容であり、また生徒も関わることで、聴衆も真剣になってしまうエキサイティングなディベートとなりました。

選抜された教員によるエキシビションディベート

生徒のエキシビションディベートでは、「***Marrying at an older age is better than marrying young.*（早婚よりも晩婚がよい。）**」について、選出された代表 6 名が議論を交わしました。初めて会う他校の生徒とチームを組み、準備時間にはしっかりと意見交換をしました。POI も出た甲乙つけがたい素晴らしいディベートになりました。聴衆からは肯定、否定チームほぼ同数の手が挙がり、チーフジャッジによる投票で Opposition（否定側）の勝利となりました。

会場の視線を浴びながら、堂々とスピーチ

異なる学校の生徒同士で協力

【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

PM [redacted]さん（厚木）
MG [redacted]さん（鎌倉）
PMR [redacted]さん（湘南）

LO [redacted]さん（横浜翠嵐）
MO [redacted]さん（光陵）
LOR [redacted]さん（多摩）

〈教員エキシビションディベータ賞〉

PM [redacted]先生（湘南）
MG [redacted]先生（柏陽）
PMR [redacted]先生（神奈川県教育委員会）

LO [redacted]先生（横須賀）
MO [redacted]先生（厚木）＜社会科＞
LOR [redacted]先生（横浜緑ケ丘）

〈チーム賞〉

1 位：厚木、2 位：湘南、3 位：光陵、4 位：鎌倉、
5 位：横浜緑ケ丘、6 位：多摩、7 位：横浜平沼、8 位：横須賀、9 位：横浜翠嵐、
10 位：柏陽、11 位：川和、12 位：茅ケ崎北稜

1 位

2 位

3 位

4 位

〈ベストディベータ賞〉

[redacted](Yokohama Hiranuma), [redacted](Kamakura), [redacted](Kamakura), [redacted](Odawara), [redacted](Yokohama Midorigaoka), [redacted](Koryo), [redacted](Shonan), [redacted](Kawawa), [redacted](Shonan), [redacted](Tama), [redacted](Atsugi) [redacted](Sagamihara), [redacted](Atsugi), [redacted](Sagamihara) [redacted](Sagamihara), [redacted](Yokohama Suiran), [redacted](Koryo) [redacted](Yokohama Midorigaoka)

〈POI 賞〉

[redacted](Hakuyo), [redacted](Chigasaki Hokuryo), [redacted](Yokosuka), [redacted](Kamakura), [redacted](Yokohama Hiranuma), [redacted](Shonan) [redacted](Chigasaki Hokuryo), [redacted] (Koryo), [redacted](Yokohama Suiran), [redacted](Yokohama Suiran), [redacted](Yokohama Suiran), [redacted](Atsugi), [redacted](Sagamihara)

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

○ 今日のディベート大会では新しい発見が多かったです。ジャッジの先生のディベートが終わった後の振り返りのときのお言葉がとても参考になりました。【横浜翠嵐】

○ 英語で意志を表現することがこんなにも視野が広がることだと分かり、今までに感じたことのない感動を受けた。【横浜平沼】

○ とても貴重な体験できたのでこれからもやってみたいと思いました。POI を言ってみたかったけど言えなかったのは残念でした。【横浜平沼】

○ 授業とは全然違って、初めての経験であり、刺激になりました。【横浜緑ケ丘】

○ うまくいかないことばかりで悔しかったけど楽しかった！【横浜緑ケ丘】

○ 題材が面白かった。【光陵】

○ 初めてディベート大会というものに参加したけれど、とても有意義な時間でした！ディベートが上手い人はまずアイコンタクト、論理展開が具体的で、よどみなく言葉をつなげていたことが印象的でした。【川和】

○ 学校の授業でも、今日のような活動をしてみたいと思いました。自分の言いたいことを英語で伝えるのはとてもむずかしいし、それを一貫性をもつことも難しいことで、ただ説明される受動型の英語ではいけないのではないかと思いました。【柏陽】

○ とても楽しく今までこの大会を知らなかったことを残念に思った。【多摩】

○ 今日は勝つことが出来なかったが、来年までまた練習を重ねて、次こそはみんなで勝ちたいと思った。また来年も参加したい。【横須賀】

○ 先生らのエキシビションマッチを見て、自分も先生のように自分の意見をスラスラと言えるようになりたいと心から思った。【横須賀】

○ 何より他校のディベートや先生、生徒のエキシビションマッチも見れたので、本当にいい経験になったと思います。【鎌倉】

○ ディベートも楽しいけど対戦相手と話すのが楽しい！【鎌倉】

○ 普段英語を使って、自分の意見を発表したりする機会が少ないので、初めての機会だったのですが、文法など気にすることなく話せたときに伝わったような気がした。【湘南】

○ 学校の授業では、教科書の本文や、進出単語などの音読や発音練習といった所でしか speaking の練習をすることがないので、授業にも speaking の場がもっと増えたら良いと思った。【湘南】

○ 人は一人一人違う存在であるため、必ずしも意見が合うとは限りません。このように人々が異なる意見を持つ中で、社会を成り立たせるには、話し合い等を経てお互いに納得できる面を探す必要があると思います。今回の交流大会はそれのとても良い練習になったと思います。【小田原】

○ 自分が思っていたよりやわらかい雰囲気で進んでやりやすかったです。【茅ケ崎北稜】

○ 相手がうなずきながら聞いてもらうことで、対戦相手というよりは自分の意見をよく聞いてくれる人に感じて、嬉しく思いました。【茅ケ崎北稜】

○ 先生方のディベートを見学できたこともとてもうれしかったです。文を読み上げている、という

より、相手に語りかけている、といった感じで、自分も真似したいです。こういった機会を設けていただいて、本当にありがとうございました。【相模原】

○ 先生たちのエキシビションが、迫力がものすごくありました。【相模原】

○ フィードバックがとても参考になりました!!楽しかったです。【厚木】

○ エキシビションもすごく感動しました。【大和】

○ 自分にとってはすごく難しいことなのに、エキシビションされていた方々は自然に楽しそうにやっていて羨ましかったし、もっともっと英語を頑張りたいと思った。ああいったハイレベルなものを間近でみれて、雰囲気を感じられたこと、来て良かったと思った。【大和】

○ 先生のエキシビションを見て当たり前ですが、英語力による表現の幅が全く違うと思いました。英語をもっと勉強してからもういちどやりたいと思いました。【横浜緑ケ丘】

○ 先生方のユーモアも交じったディベートがとても面白かった。【鎌倉】

○ エキシビションマッチはいいところや参考にしたいところがどんどんでてきてとても面白かったし、あれぐらいになりたいなと目標ができて良かった。【鎌倉】

教員の声

○ 他校の生徒の様子を見ることができて教員にとってもよい刺激になりました。【柏陽】

○ 1人1人が一生懸命していて、練習すればその分、上手にディベートができるようになる、とよくわかりました。【光陵】

○ モーションの2つは最近の話題だったり、生徒の身近な話題だったりと、とても良かったと思いました。【湘南】

○ 生徒も教員も、とにかく練習して慣れることが大事だと痛感しました。【湘南】

○ とてもいい刺激になりました。(生徒/私ども教員にとっても)【小田原】

○ 他校の生徒と議論をかわすとともに、終わったあとの笑顔での交流が高校生にとって良い影響があると感じました。【湘南】

○ 生徒のとても頑張っている姿が見れたし、教員エキシビションもとても楽しくエキサイティングなものでした。【大和】

○ 参加生徒は日頃の学習の成果を発揮する機会がもててとても充実しているように思われた。【横浜平沼】

○ とても楽しかったです。今年は研修参加のみで生徒の指導はしていなかったので、来年は自校の生徒をトレーニングさせて引率教員として参加したいです。ジャッジの資格も取りたいです。【教員】

○ 研修の機会を1年間教員がいただけたことをとてもありがたく感謝しています。現在高校3年生の自由英作文の指導でもディベートの構成や論理の展開がとても活用できるので、今から授業に取り込んでもらえるように学校の先生方にもより広げていきたいと思います。【教員】

2・1・7

平成 29 年度　学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 6 回研究会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）

（文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時　2017 年 11 月 24 日（金）15:00~17:00

場所　神奈川県立横浜平沼高等学校

参加者　13 校 20 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 4、横浜緑ヶ丘 1、光陵 1、希望ヶ丘 1 、柏陽 3、横須賀 2、湘南 2、平塚江南 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、厚木 1(社会)、大和 1）

はじめに、神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より、「今日は最後の研修会。2 ラウンド実践思う存分楽しんでください。是非学校の中での指導で中心になって活躍してほしい。また、即興型英語ディベートの公的資格といってよいと思いますが、PDA 認定教育ジャッジ試験の受験も検討してもらえればと思います。」とのご挨拶がありました。次に、PDA 代表理事中川（大阪府立大学工学研究科・助教）より、研修最終回の位置づけ、PDA 認定教育ジャッジ試験でのポイントについて説明がありました。研修最終回では PDA 認定教育ジャッジ試験受験希望者に対する試験も兼ねられる旨が述べられました。

教育委員会高校教育課　時乗先生の御挨拶

PDA 代表理事　中川による説明

第 1 ラウンドでは、早速 PDA 認定教育ジャッジ試験受験者を交えて、真剣なディベートが繰り広げられました。論題は、Corporal punishment should be allowed in schools. (学校での体罰を認めるべきだ。)でした。研修第 1 回目と比べると、格段に上達したスピーチばかりでした。上記認定試験受験者によるジャッジコメントも行われ、普段よりも身が引き締まったという意見もありました。

第 2 ラウンドの論題は、We should abolish beauty contest. （美人コンテストを廃止すべきだ。）でした。POI は各テーブル自然と何度も出、全 6 回の実践研修の成果が大きく発揮されました。パネルジャッジ同士による議論の振り返りを行ったチームもあり、有意義な時間となりました。

1ラウンド目および2ラウンド目の様子

2回の実践が終了すると、最後に本研修を通して学習（アクティブラーニング）した即興型英語ディベートの授業での導入について、事例の発表が簡単に行われました。

横浜平沼：

トピックを教科書内容に合わせた形でまとめとして実践した。

柏陽：

コミュ英Ⅱ、英語表現Ⅱで4回ディベートを行った。6人ディベートで、進行は教員。MG/LORの前に1分準備時間を与えた。

翠嵐：

英語表現Ⅰで週1回行っている。まずはペア1対1で5分プレパレーションをし、理由を2つ考えることができている。

緑ケ丘：

４対４で行った。3年でも11月まで行った。スピーキングテストも行った。

平塚江南：

いきなり授業に導入したが、生徒たちは予想以上に活発に活動したので驚いた。We should introduce compulsory voting. そのまま生徒に投げかけたが、担当している3クラスすべてで上手くいき、びっくりした。

早速、研修で得た即興型英語ディベートを各校に用いられた先生方が複数おられ、その実行力がよく伝わりました。

最後に、常日頃多忙な中、全6回の研修*で4回以上出席された先生方に修了証が授与されました。皆勤賞も5名おられ、受講教員代表者が賞状を授与されまた。

（*全6回の実践研修のほか、1回の授業見学、PDA神奈川県公立高校即興型英語ディベート交流大会もありました。）

修了証を授与された先生方（最終回欠席の方には後日郵送）

最後に、ワーキンググループ会長の柏陽高校校長の井坂先生より、「研修会に継続出席し、修了証をもらった先生方、ぜひ各高校の校長へ見せてください。また、PDA認定教育ジャッジ試験を今後受験されたい方はお知らせください。」との旨が伝えられ、毎月集まられた教員仲間同士が名残惜しそうに研修会を後にしました。

井坂校長先生の閉会ご挨拶

一年間に渡りご協力いただきました時乗先生はじめ教育委員会の皆様、17校校長先生方、各回の会場校、参加教員の皆様、本当にありがとうございました。

教員の声（アンケートより抜粋）

・初回にはジャッジのやり方がわからなかったが、最終回で飛躍的にどういう観点で見たらよいかがわかるようになった気がした。
・個人的に経験が少なかったので、ジャッジ→ディベーター―の順で体験出来てとても良かった。
・自信ある英会話を活かすタイミングが見いだせなかったものの、本研修を通して、ディベートという総合的な英語実用のツールを体験出来て、生徒の力を伸ばす自信がついた。
・ディベートは少し上手になったと思います。何よりも他の先生から多くのことを学べました。
・研修を通して、いかに自分が未熟かということが分かりました。常にロジックを考えていかないといけないと思う。
・PDA 教育認定ジャッジを取りたいと思います。がんばります。ご指導お願いいたします。
・新たな視点で物を考えることができました（毎回のことですが…）
・ジャッジするのが難しい…でも選ばなきゃ！という経験ができた。
・自身のディベート力も高めたいし、生徒にもそういう機会を積極的に提供していきたい。ジャッジ力もたかめたい。
・まず、実践的な英語力をきたえられる場にして頂きましてありがとうございます。英語教員が自身の英語力をきたえる中で、英語力向上に必要なプロセスが見えてくると感じました。日々生活の中で少しでも多く英語を話そうという姿勢が身につきました。
・だんだんやっていくうちに少しずつできるようになると、楽しくなる、という事を体験することができました。授業で実践すると生徒もとても喜び、楽しそうにやっています。今後も授業に取り入れていきたいと考えています。
・PD は本当に難しいです。しかし、回数をこなせば、慣れてくるということもまた実感できました。
・最初はこんなの生徒ができるようになるのかと疑っていたが、自分が実際に体験することによって、自分の学校の生徒でもできるようになるという確信を持てたし、自分が指導できるかもしれないという自信もついた。来年もぜひやってください。😊

---

11 月 24 日に選ばれたベストディベーター―の皆さん

〈1 回目〉	〈2 回目〉
[redacted]先生（湘南）	[redacted]先生（横浜平沼）
[redacted]先生（横浜平沼）	[redacted]先生（平塚江南）

最終回、集合写真

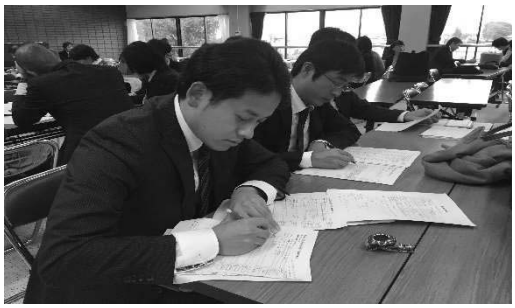
2・2 群馬県教員研修会　授業でできる即興型英語ディベート研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）
大阪府立大学工学研究科　助教　中川智皓

開催日時：2017 年 10 月 20 日（金）13:10-16:10
会場：群馬県立前橋高等学校　蛟龍館２階
参加者：教員 74 名（62 校）

平成 29 年 10 月 20 日（金）、前橋高等学校において、第 1 回群馬県英語教育研究協議会午後の部ワークショップとして「授業でできる即興型英語ディベート」を主題とした研修が行われました。研修のまず初めに、大阪府立大学工学研究科、助教の中川より、挨拶とディベートの概要、ルールについての講義が行われました。現場における授業で導入できるよう、即興型英語ディベートは 50 分で行われます。中教審が高校の英語で「論理・表現」を新設するなど科目案を再編する方針をまとめたとおり、それに伴う学校教育に於けるディベートの有用性を確認しました。

次に、教員の皆さんにも生徒の気持ちになって、実際にディベートを体験していただきました。ディベートでは、1 つのお題が与えられ、それに対して肯定チーム、否定チーム、ジャッジのグループに分かれます。論題が発表されてからディベート実践が始まるまでの準備時間は 15 分です。論題は、第 1 ラウンド「宿題を廃止すべきだ」、第 2 ラウンド「アイドルの恋愛を禁止すべきだ」でした。和気藹々と議論が繰り広げられました。



参加者の声（アンケートよりそのまま抜粋）

- 初めて英語ディベートを体験しましたが、うまく言えたり、予定していたことが言えなかったり悔しさがあるのにとってもそう快で、勝敗があっても（日本の文化と合わないなどということはなく）とてもクラスメイトと仲が深まりそうだと思いました。。
- 「準備ができない」ことが一番効果的だと思います。「使える英語」という視点がいいと思います。
- テンポよく２ラウンドでき、ジャッジからの feedback も得られてよかったです。
- 周りの先生方から刺激を受けました。モチベーションUP につながると思います。
- なかなか自分一人ではやれない貴重な経験ができ、またチームのお二人とも非常に親しく連帯感を持てたので来てよかったです。授業でも少し準備時間を取ればやってみる価値があると思いました。
- 自分が実践できたのがよかった。指導する方にまわることはあっても、ディベーターになる機会は少ないので。型が決まっているので、やりやすいと思った。
- 即興型英語ディベートを体験でき、同じチームの人との意見交換や相手チームの意見を聞くことができ、ディベートを通じていろいろな考えも交換できることがわかりました。
- ワークショップということで「ディベートするのかな」と少し気が重かったのですが実際に体験出来て、緊張しながらも楽しめました。自校のレベルに合わせて少しずつディベートのような形式を取り入れられたらと思います。
- 実際に２回体験することでディベートがどういうもの（効果が期待できる）かよくわかりました。ありがとうございました。

本研修会に参加された学校

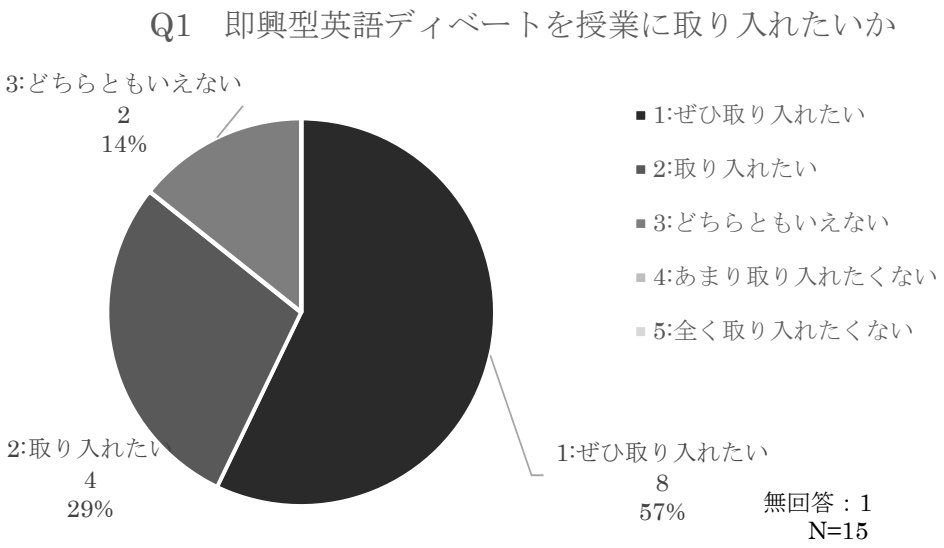
前橋高等学校
前橋南高等学校
前橋西高等学校
前橋女子高等学校
前橋東高等学校
勢多農林高等学校
前橋工業高等学校
前橋商業高等学校
前橋清陵高等学校
高崎高等学校
高崎北高等学校
高崎女子高等学校
吉井高等学校
高崎工業高等学校
高崎商業高等学校
桐生高等学校
桐生南高等学校
桐生女子高等学校
桐生工業高等学校
伊勢崎高等学校
伊勢崎清明高等学校
伊勢崎工業高等学校
太田高等学校
太田東高等学校
太田女子高等学校
新田暁高等学校
太田工業高等学校
太田フレックス高等学校
沼田高等学校
尾瀬高等学校
沼田女子高等学校
利根実業高等学校
館林高等学校
館林女子高等学校
渋川高等学校
渋川女子高等学校
渋川青翠高等学校
藤岡中央高等学校
藤岡北高等学校
藤岡工業高等学校
富岡高等学校
富岡東高等学校
富岡実業高等学校
松井田高等学校
大間々高等学校
下仁田高等学校
中之条高等学校
嬬恋高等学校
吾妻高等学校
板倉高等学校
館林商工高等学校
西邑楽高等学校
大泉高等学校
中央中等教育学校
前橋市立前橋高等学校
高崎市立高崎経済大学附属高等学校
桐生市立商業高等学校
太田市立太田高等学校
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校
前橋市前橋市立広瀬中学校
前橋市前橋市立宮城中学校
総合教育センター
群馬大学大学院教育学研究科

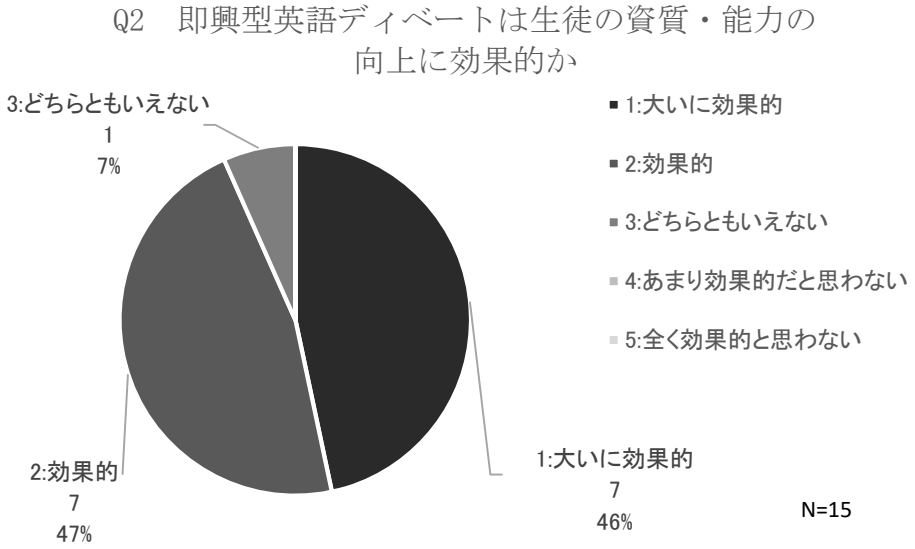
2・3 アンケート結果

研修におけるアンケート結果を以下に示す。

2017 年 6 月 16 日　平成 29 年度 4 技能指導法研究グループ授業見学会

（筑波大学附属駒場高校にて）

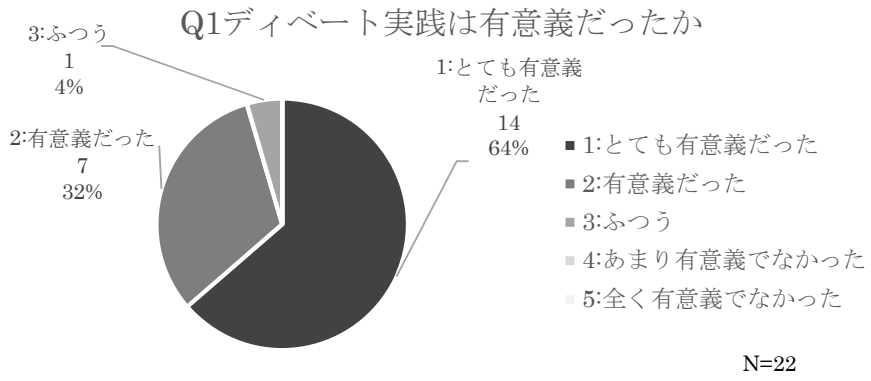


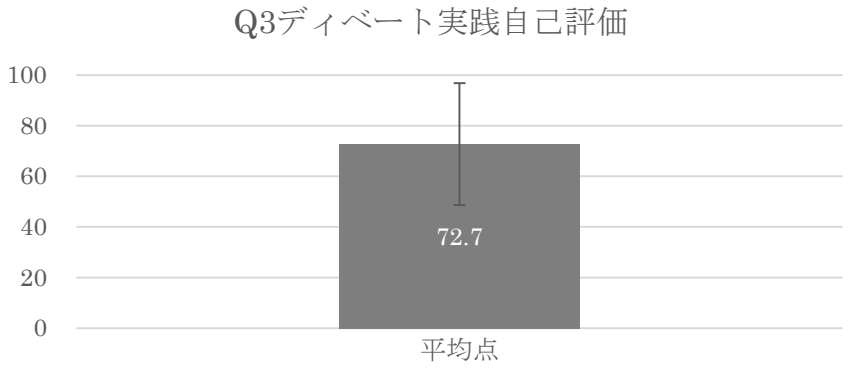


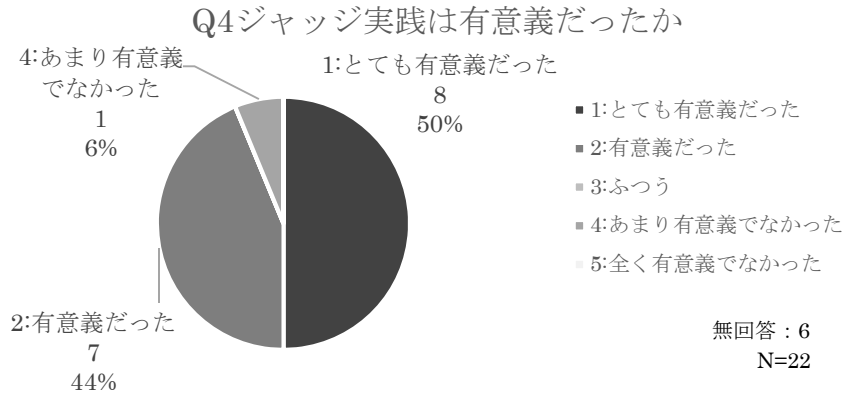
ID	Q3.Q2 の理由	Q4.ディベートを導入する際の問題点	Q5.導入方法案	Q6.本日の感想	Q7.次回のセミナー要望
1	英語で考え、英語で表現することができるから。生徒同士で英語を使う機会を増やすことができるから。			審判に選ばれたグループがディベートに参加できないと悔やんでいる姿を見て、英語で話したい、議論してみたいという気持ちを強く持った生徒を育ててみたいと思いました。	
2	その場で考え、すぐに英語で文をつくる力を養うことができるとともに、思考力の向上も見込めると思うから	生徒のレベルにどのように合わせていくか。		生徒が活発に自分の意見を英語で相手に伝えようとする姿勢がおおいに見られ、楽しいかつ、良い取り組みであるなと感じました。	
3	4技能をまんべんなく鍛えることが可能なため。特に、即興で話すスキルを伸ばすことは、実生活でも役に立つように思う。	話すのが苦手な生徒が、より消極的になる可能性がある。	ディベート（スピーキング）の授業科目を設置する。英語部か、ディベート経験者にジャッジを依頼する。	生徒を見て、相手に伝えようという雰囲気がまだ充分でないと感じたが、やはり回数を重ねる必要があり、伝え方のアドバイスを教員が行うべきだと感じた。	研究授業を、更に見てみたい。
4	気の弱い女子が多く、ジャッジでどちらかを決めることが負担になると予想します。しかし、自分の思いを相手を納得させる方法で表現することも本校生徒には必要とも感じました。	コミ英Ⅰでは主に reading＋本文に関する表現活動を１課につき、５～６時間でやっています。そこにどう組み込めるか、課題です。		生徒１人１人が自分でよく考え、Debateの際にはチームとして協力し、素晴らしい授業でした。ALTの先生が最初の単語発音と、最後のコメントだけの参加だったかと思います。ネイティブの先生とのコミュニケーションに対する考えがあれば伺えればと思いました。	
5	自主的に考えている、頭を使っているのが伝わってくる。英語を使うことと、頭で考えることは、やはり違うな、と感じた。	時間がなく、そこが一番の問題。やらないといけないことが多過ぎる。	教科書内容も一般化、個人化する。	ディベートの進め方がイメージできた。ここまで、どう到りついたかが気になります。ありがとうございました。	実践を入れて頂きたい。
6	英語を学ぶというよりも英語を使って論理的に考えることに、意識を向けられるようになる。英語の技能を高めることと論理的に考えることのどちらも motivate できる。	考えをスムーズに英語に変換できない。知的対戦を楽しめない。	事前にある程度準備をさせる。使える表現の型を教えこむ。使える考えのフレームワークを教えこむ。	日本のリーダーを育てている学校の授業は、かくあるべしと感じました.	
7	正直なところ、どのようにディベートさせるか全く知識がありませんでしたので、本日の実践を見て、この方法なら本校の生徒でもできそうだったので。	準備時間を多めに取る。使える表現を多めに与えておく。	今回の授業以上にはありません。	全くアイデアがない状況から、帰ってすぐにでも準備に取りかかろうと思えるまでになりました。平日に学校を空けてまで来る価値は十分にありました。ありがとうございました。	
8	新たにインプットした単語や文法を、実際に使うことでアウトプットすることが出来るため。	私の学校では、英語を使う中で、間違いやミスをしてしまうことに大きなためらいを感じる生徒が多いように感じるので、とても不安があります。		とても参考になる授業でした。はやく導入してみたいですが、生徒たちが慣れるまでに時間がかかりそうです。根気強くがんばってみようと思います。ありがとうございました。	

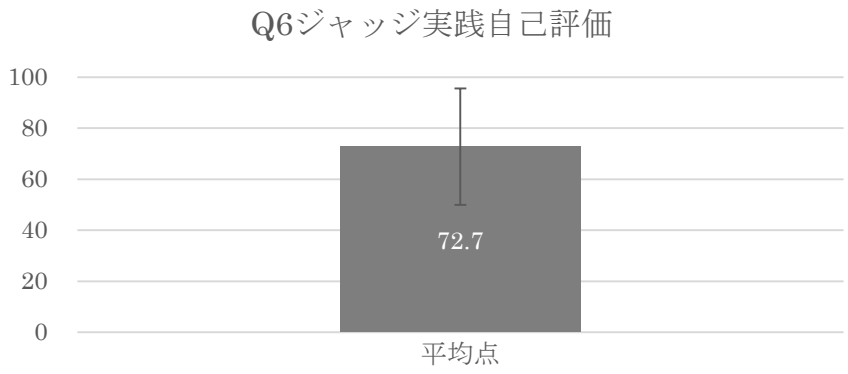
ID	Q3.Q2 の理由	Q4.ディベートを導入する際の問題点	Q5.導入方法案	Q6.本日の感想	Q7.次回のセミナー要望
9	生徒が自分の意見を持ち、それを表現しようとしている。その際に英語を使うことによって、これまで蓄えてきた語彙、文法、構文等が流れ出てきて、とても良かった.英語で話すことに挑戦しようとする態度を養っていて素晴らしい。	評価をどうしているのか知りたい。評価が生徒のモチベーションにつながると思う。また、全クラスで行うには教員側のコンセンサスを得なければならない。（授業のやり方、評価の仕方等）	平塚江南では、3年次に文系、理系用双方が選択できる自由な選択科目があるが（英語）、その中の1つとして「ディベート」を入れることもできると思う。しかしながら、全生徒に取り組ませたいので、教員同士の研修とコンセンサスの構築が必要不可欠である。		
10	対話的で深い学びにつながるから（思考力、表現力、判断力）	生徒の英語のレベル　教職員の理解・協力	モデルディベートを見せる。まず日本語でやらせてみる	駒場の生徒のレベルの高さを感じた。	引き続き、ご指導よろしくお願いします。
11	生徒が英語で話そうとする姿勢が見られてよかった。しかし、メモや話し合いもほとんどが日本語でされていたため、この後どのような効果が生まれるのかわからないため。	生徒全員に取り組ませるためには、多くの教員の協力が必要。即興型ディベートの試みはすばらしいが、埼玉県の取り組みに比べると見劣りがします。	埼玉県のように3年間を通したカリキュラムを考えた上で導入するとよいと思う。	ありがとうございました。生徒がのびのびしていてすばらしいです。	
12	彼らのもてる知識や推論を限界までアクティベートできるから	能力差、意欲差、語いや stock phrase の量がちがいすぎる	・我々が指示をめいかくにできるようにする　考えを適切に導くためのプリントをつくる…	本当に素晴らしかった。能力と意欲のある生徒をこのレベルにまでもっていく授業だなと思いました…　出来るのであれば、是非勤務校でもやりたいです。	
13	トピック選定には注意が必要ですが、建設的に論理的に話し、書く力につながると思うので。		生徒が話しやすいトピックで、関連語句の導入後に行う。（単元と関連させたいので、最終の活動として）	活発に意見を出し合って準備をしていたのが印象的でした。おそらくこの発表に先立って、政治（授業）についての基礎知識も身につけていたのだと思うのですが、これまでの授業の流れも知りたいと思いました。	
14	4技能をバランス良く向上できる。	相手の意見に対し、即興で反論し、さらに自分の意識を言える程の英語力はない。	反論はせず、お互いに意見を言わせてジャッジするところから始めてみたい。各ターンのあとに時間をとり、反論を考える時間を設ける。	かなり質の高いディベートができており、ジャッジのスキルも高いと感じた。	
15	習ってきた文法やボキャブラリー、イディオム等を自分の言葉として使う機会になるから。	論理性の部分で、主張、理由、具体例の関係性をまず理解、整理していく必要がある。	相手の言ったことに対して批判をするとき、（日本語での）アイディアがない状況では言葉に詰まってしまうので、段階的にアイディアを考える時間を減らしていき、最終的に即興型にしていきたい。	理想形の授業を見させて頂けたので、ここまでにどのようなご指導があったのかがより気になりました。	

2017 年 7 月 14 日平成 29 年度学力向上進学重点校エントリー校
4 技能指導法研究グループ第 2 回研究会





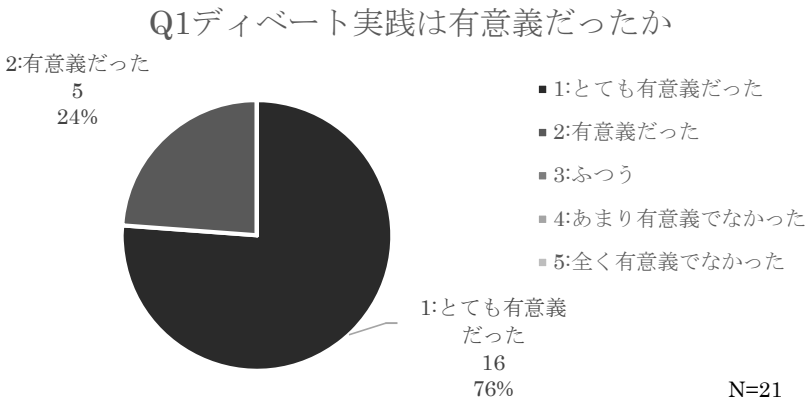


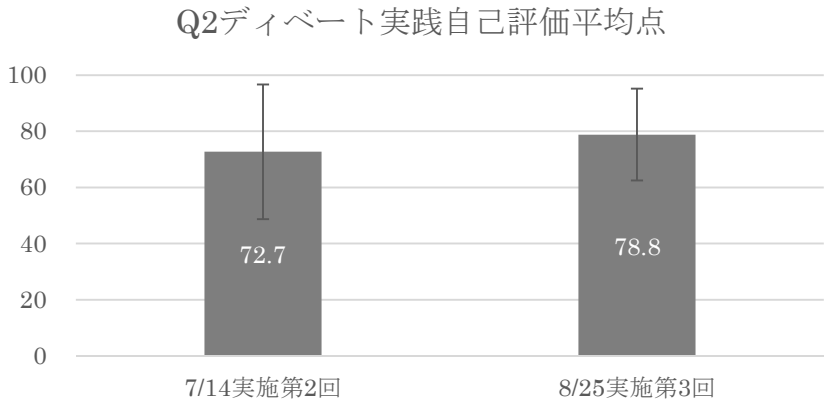


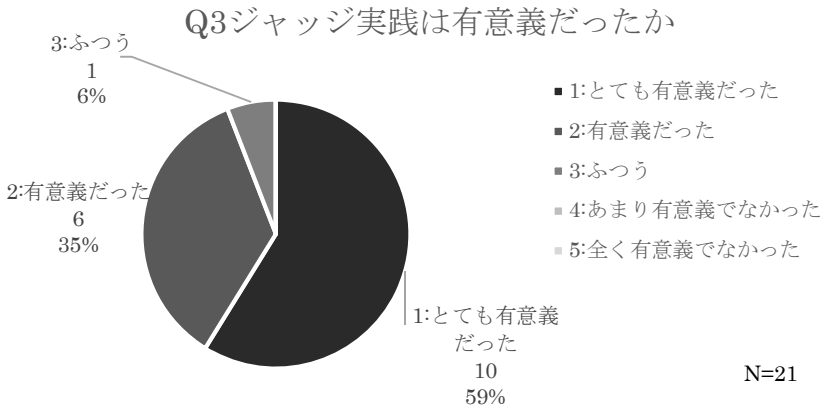
ID	Q2.Q1 の理由	Q5.Q4 の理由	Q7.本日の感想
1	自分自身がディベーターとジャッジを経験して指導も受けられるので、生徒にも指導しやすくなるので。	4 人のグループのときに、フローシートを書くのが苦手なので、練習になったし、客観的に議論を聞いてジャッジする機会が得られたので。	来週の木曜日に、1 年生で初めて実施するので(3 年までは既に実施済です)、今回の経験を生かしたいです。
2	緊張した・・・生徒の気持ちが分かりました。	難しさを知りました・・・どうしても先入観が入ってしまうなぁ・・・ということを実感できました。	次は、もっと理論的に、落ち着いてやりたいです。
3	その難しさを体感できたので、生徒へのサポートの心構えをもつことが出来た。	空欄	空欄
4	多くの方々とアイデアを共有し、さまざまな気付きをすることができました。たくさんの失敗ができて良かったです。	空欄	次回は、ジャッジの実践方法をしっかり学びたいと思います。
5	ディベーターとジャッジの両方を経験できたため。	ディベーターとジャッジの両方を経験できたため。	生徒たちのために、研鑽を積んでいきたい。
6	自分がやることで、生徒にどのようにやるのかイメージがわき、どのような点が難しいのかが分かった。	同上(自分がやることで、生徒にどのようにやるのかイメージがわき、どのような点が難しいのかが分かった。)	空欄
7	実践が多くあったため。	上記と同じ。	本日もありがとうございました。
8	生徒の立場が理解できた。	空欄	準備時間が短すぎると感じた。
9	Debate 何回かやることで、慣れていけると思ったから。もっと回数を重ねていきたい。	やってません。次回ぜひお願いします。	(前回の集まり)1 回目の説明を、やりながら思い出していったので、もっと自分自身に定着させたいです。
10	空欄	ジャッジについては、初めての先生も多く、大変有意義になりました。	毎回準備していただきありがとうございます。次回も、よろしくお願い致します。8/10･11 大阪大会でお世話になります。よろしくお願い致します。
11	実際にやった経験がほとんどなかったので。	経験がほとんどないから。	生徒への指導に不安たっぷりです。
12	学ぶ側として沢山失敗ができました。ありがとうございました。	空欄	空欄
13	前回の復習とともに、ディベートの進め方を再確認できて、良かったです。	ジャッジの難しさと、全体を見て判断することの大切さが分かりました。	空欄
14	今までディベートというものを経験してなかったので、学ぶ事が多くありました。	ジャッジの立場でやる機会がなかったので、是非やってみたいと思いました。	良い経験となりました。ぜひ授業で活用していきたいです。

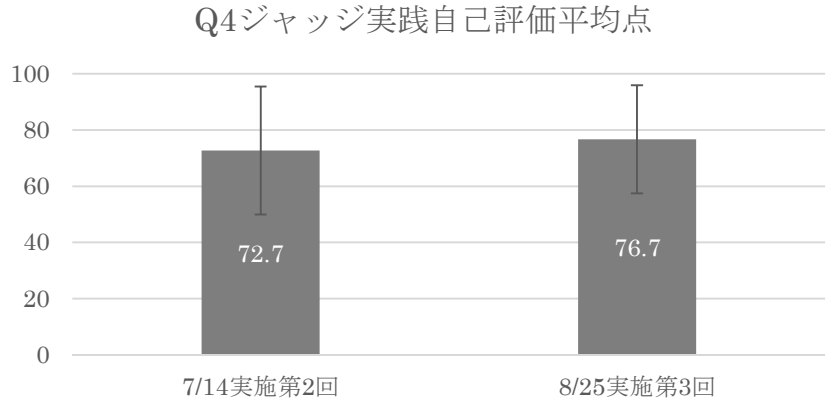
ID	Q2.Q1 の理由	Q5.Q4 の理由	Q7.本日の感想
15	2 回ともディベートチームだったので、自分のスピーカーとしての練習はできたが、ジャッジはよく分からなかったので。	できなかった。	Motion analysis を学びたいです。
16	空欄	他の人のディベートを客観的な立場で見ることができ、勉強になりました。	次回まで自分の英語力を少しでも向上させて臨みたいと思います。
17	指導していく立場として、ディベートの難しさを実感できて良かったです。	ディベートする側で参加すると見えなくなってしまう、議論の全体像を把握する、よい機会になりました。	空欄
18	初めて自分が体験し、何が生徒に困難だったかを想像できた。全然できなかったので、勉強したい。	うまくできなかった（視点がよく分からなかったが）。	流れが経験できたことは、とても良かった。力が足りない（というか、全くない）分、生徒と同じ目線でできましたが、これから自分も体験し、授業にも取り入れて、生徒と一緒に少しずつ伸びていったらうれしいな、と思います。
19	生徒が実践する際、モタついても、とにかく言いたいことを表現することが大切、と気付けたから。	ジャッジを学ぶ回であったが、ジャッジで立ち回る機会がなかったため。	POI が来た時や、思わぬ反論があったときに、タイムマネジメントが難しいと感じた。定義は、細かく設定したいが、どう定めるか、どういう視点を持つべきなのか、分からなかった。
20	実践的にディベートの難しさ･楽しさに加えて、起こりうる問題が分かりました。	チーム分けの事情で、2 回ともディベートでした。	恐れずに自分の伝えるべきことを伝えられるようになりたいです。
21	初めての経験で、とても参考になったため。一度やってみることで、指導側で伝えたいこと、伝えるべきことが具体的に浮かんだ。	ノウハウを説明してもらったことで、イメージが強くわいたため。しかし、実際にやってみると難しく、上手くいかなかったので、またリベンジしたい。	空欄
22	やはり、実践することによって、ほんの少しずつですが、上達すると思いました。	空欄	具体的な説明などを、もう少しできるようにしたいと思いました。これを、どう授業に取り入れていくか、もっと具体的にアイディアが浮かぶといいと思います。

2017 年 8 月 25 日平成 29 年度学力向上進学重点校エントリー校
4 技能指導法研究グループ第 3 回研究会





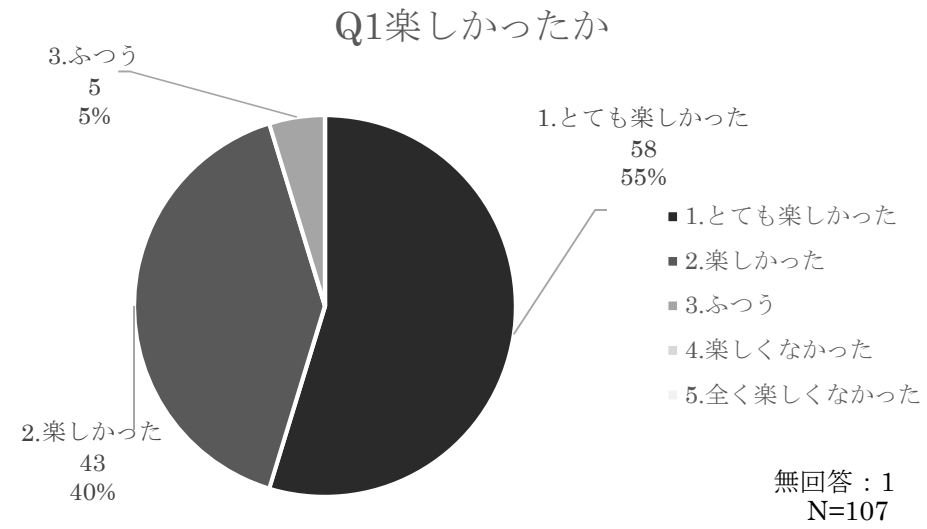


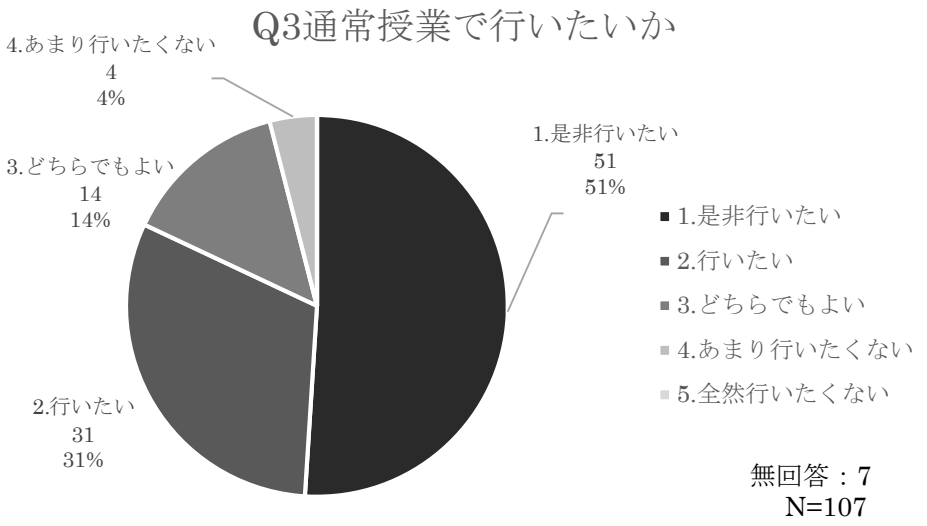


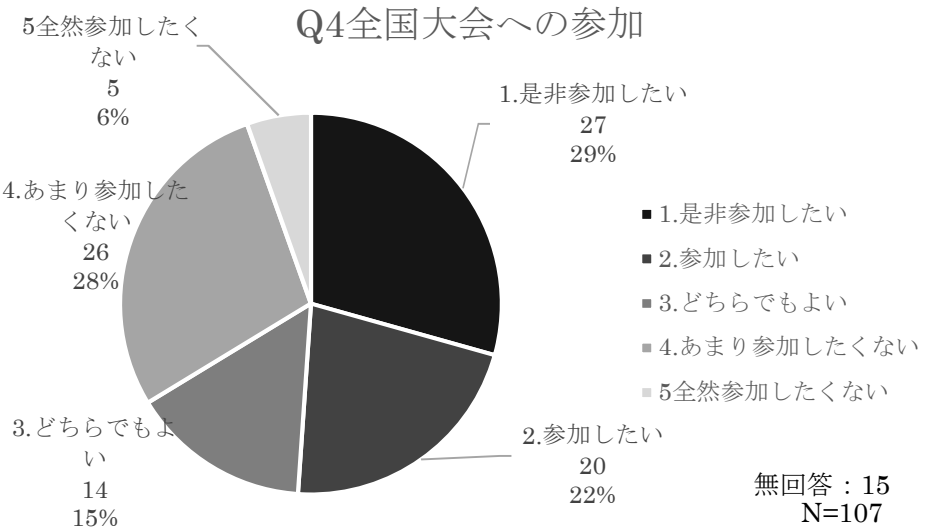
ID	Q1 の理由	Q3 の理由	Q5.質問・要望	Q6.本日の感想
1	少しずつ、debate を向上させるためのヒントを知ることが出来、それを実践の debate に即とりいれられたら	ジャッジのポイントを（見るべき、注目すべき点）もっと知りたい。	空欄	空欄
2	回数をこなすことで、自分のディベートが上がっていくのが実感できるから	初めての経験だったから	空欄	空欄
3	AREA の練習がとても有意義でした	空欄	空欄	空欄
4	実践のコツを掴んでから出来たので流れの想像はついた。	「”AREA”という視点でジャッジをする」という視点が得られた。	空欄	全然出来ませんでしたが授業でやってみようかと思います。
5	空欄	空欄	空欄	AREA を念頭に置くということを指導に取り入れていけばより深みのあるディベートを作ることができると思い、授業に取り入れたいと思いました。ディベート以外と活動（英作文）でも remind できますね。
6	空欄	空欄	お互いに聞き取れなかった場合、2～3分では足りない。	「難しい、できない、悔しい」で終わらせない仕組みを考えたい。
7	空欄	遅れてきたので分りませんでした。	空欄	空欄
8	空欄	空欄	進度のばらつきをコントロールするコツ等があればお聞きしたいです。	（17 時に終わるようにマネジメントしていただきたいです）
9	motion がなかなかでした。時事問題、社会科学系もよろしくお願いします。	スピーカーよりジャッジの方が大変です。生徒のためにもジャッジ能力を高めることが必要だと思います。	空欄	空欄
10	空欄	空欄	空欄	日常生活につながるテーマで”深く”考えさせたい。また考えるスキルを身につけさせたい。
11	空欄	空欄	空欄	奥が深いです。どうしたら冷静に論理的に考えられるのか、、、。
12	空欄	空欄	空欄	AREA を意識できるようにしたい。

ID	Q1 の理由	Q3 の理由	Q5.質問・要望	Q6.本日の感想
13	空欄	空欄	空欄	空欄
14	ディベートにおいて大事な観点（立論、反論）を学んだうえで、それを実践に移すという流れがよかった。	客観的にディベート（議論）の流れを考えることができた。立論と反論に関して習ったことを、確認することができた。	ディベートが苦手と感じている生徒へのフォローの仕方が知りたいです。	空欄
15	だんだんと緊張することなくできるようになってきた。	またジャッジの仕方がわからない。見るポイントがわからない。	どのような頻度で？1 回目の授業はこういう風に行う、2 回目は、、、など、どのように最終形態に持っていくのかの教えてほしい。ディベート授業を導入したことによって模試や試験結果は変わるのか？	空欄
16	空欄	遅れてきて出来ませんでした。（ご迷惑をおかけしてすみませんでした。）	3 人のときはシートをそれぞれ 1 枚ずつもつのでやりやすいのですが、4 人のグループになると、どこで分けたらいいかわからなくなってしまいました、、、。教えていただけるととても嬉しいです。	AREA の概念が入るととてもやりやすくなりました。生徒の指導にも取り入れたいです。
	空欄	一通りディベートをきいて、ジャッジのし方を体験することができました。	空欄	反論が難しいので、上手にできるようになりたい。即興で反論するのは生徒にとってもかなり難しいと思うので、どう指導したらよいのかと考えました。
18	空欄	空欄	空欄	難しかったです。理解してディベートするのはもう少し時間が必要だと改めて感じました。特にジャッジに関してはより多くの実践が不可欠だと思いました。
19	ディベートは初めてやったのですが、楽しかったです。（来る前はとても不安だったのですが、、、）また、レベルの高い、英語のスピーチをきけて、勉強になったし、刺激になりました。	ジャッジも初めてだったのですが、勝ち負けを決めるのがとても難しかったです。が、とてもいい経験になりました。別の角度からディベートを見ることができました。	空欄	お世話になりました。ありがとうございました。実際にやってみて、流れが分かりました。
20	空欄	空欄	1年→3 年にいたるdebateの下地づくりのための授業計画（1 年からしておくべきこと）	非常に有意義でした。自分の英語力のなさを感じました。
21	空欄	空欄	空欄	ディベートの教え方、どういうふうに反論するかの手順の資料、英単語などの資料も役立った。

2017 年 11 月 3 日　PDA 神奈川県高校生即興型英語ディベート交流大会







ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
1	高校生が即興でディベートができることすばらしいと思いました。皆さんいきいきと発言していてこれからにとても期待できます。英語が好きというだけでなく自分の意見を英語で表現できることに意義がありますね。	知り合いからの情報で参加させていただきました。我が校の生徒にやらせることは現状では大変難しいのですが、1年の時からていねいに育てていけばこのレベルまで上げることは可能かもしれません授業中にどこまで活用できるのかは、未知ですがチャレンジしてみたいです。これを指導できる若い先生方を育てることも大切ですね。
2	空欄	重点校などのもともとできる学校、もしくは積極的に取り組める学校だけでなく、「これから」の学校にも焦点(指導法の共有も含めて)をあてて、取り組んでいける環境が必要だと思いました。
3	生徒の全力で考え、発表する姿を見ることができたからです。	ありがとうございました。モーションの2つは、最近の話題だったり、生徒の身近な話題だったりと、とても良かったと思いました。また大賀先生には、直前までジャッジの準備をして頂きありがとうございました。
4	日頃の成果が発揮され、生徒達の良い表情が見られました。	生徒も教員も、とにかく練習して慣れることが大事だと痛感しました。ジャッジの方々のコメントはとても役に立ちました。
5	参加生徒(本校からの)の英語レベルは決して高かったとはいえませんが、神大大学院生の方はじめ、貴重なアドバイスを頂け、喜んでいました。	開始当初、タイマーの件等、お騒がせしました。問題なく進行できました。とてもいい刺激になりました。(生徒／私ども教員にとっても)今後とも、何卒よろしくお願いいたします。
6	・生徒の豊かな発想を英語で聞くことができること。・持っている力を一生懸命に発揮しようとしている姿がすばらしいと思います。	他校の生徒と議論をかわすとともに、終わったあとの笑顔での交流が高校生にとってよい影響があると感じました。ありがとうございます。
7	自校の生徒が日々練習で苦戦しながらも努力してきた結果、1つのチームは勝ち、もう1つのチームも相手チームが2年生中心(本校は1年のみ)でも善戦していたのを見れて、とても嬉しかったです。	他校もすごく今日までに練習を重ねてきたというのが、表情から自信があふれていることでよくわかりました。研修の機会を1年間教員がいただけたことを、とてもありがたく感謝しています。現在3年生の自由英作文の指導でもディベートの構成や論理の展開がとても活用できるので、今から授業に取り込んでもらえるように、学校の先生方にもより広げていきたいと思います。
8	生徒が生き生きと活動していた。	今後、更に発展すると思います。
9	生徒と先生のエキシビションを楽しめた。生徒の一生懸命に考え対処することは、大事、役立った	・即興で相手に対応することの難しさ、楽しさを味わえた。・論理的思考を考える訓練にもなっている。・社会人となって人前ではなすためのよい経験になった。
10	練習の成果を発揮できたから。	・今後も生徒がディベートに触れ続けてほしい。・授業に活用するのはまだ難しく感じる。
11	空欄	どうもありがとうございました。とてもいい経験になりました。
12	生徒のとてもがんばっている姿が見れたし、教員エキシビションもとてもエキサイティングなものでした。今は3年生担当でディベート等が入れにくい環境にありますが、次に担当する学年から3年間通してこの活動ができるようにしていきたいと思いました。	とても楽しかったです。来年も今年は研修参加のみで生徒の指導はしていなかったので、来年は生徒をトレーニングさせて引率教員として参加したいです。ジャッジの資格も取りたいです。
13	参加生徒は、日頃の学習の成果を発揮する機会がもててとても充実しているように思われた。	生徒と教員がともに同じ場で同じツールを使い、同じ目標に向かい研鑽を積めたことは、非常に意義のあることでした。是非来年度からも続けられることを願います。
14	生徒が活発に活動していた。	生徒にとって、よい刺激になったと思います。
15	たくさんの学びがありよい経験になったから。	実際に、参加して他校にどのような人がいるのか、どんな感じでやればよいかなど、さまざまなことを経験できてよかった。もっとうまくなって次回は、もっとディベートらしくなるように練習を重ねていきたいと思った。
16	ディベートに参加ができ、それ自体が楽しかった。	最初、ディベートに参加する予定は無かったが、急きょ参加することができ、不安だったが、ディベートが成立したし、POIも合計2回することができ、成長を感じられたのでよかった。また、先生方のディベートのレベルが高く、このレベルのディベートを自分もできるようになりたいと思った。

ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
17	自分の意見を発表することができ、相手の意見も聞くことができたから。	先生らのエキシビションマッチを見て、自分も先生のように自分の意見をスラスラと言えるようになりたいと心から思った。他校の生徒さんがとても英語がうまく、自分の意見をしっかり伝えることができていたため、自分もがんばろうと思った。
18	他の高校と対戦するのは楽しかったが、まだ自分の英語が足りなかったため、とてもがつくほどではなかった。	今日は勝つことができなかったが、来年までまた練習を重ねて、次こそはみんなで勝ちたいと思った。又、単語力や構文、熟語をよく覚えることがやはり実践に使えるのだと改めて知った。また来年も参加したい。
19	同じ年の子が活躍しているのを見て感動したから。	空欄
20	同じ高校生とは思えないようなエネルギーをもった人とたくさん接することができ、良い刺激を受けた。	もっと英語を頑張りたいと思ったのと共に、文法や発音以上に相手に伝えたいという気持ちを大切にしたいと思った。
21	ビルゲイツやアル・ゴアから学んだ。上手いなーって言い回しとかまとめ方をうまく topic と融合していえてうれしかった！	上手くなると皮肉もあってとても面白いと思った。Point1，2でいかに話を広げて、様々な視点から自分の立場を後押しできるかが難しくて大切な Point だと思った。話し方は相手を納得させる上で大切だし、さらに、内容でしっかり論理的に返せるかが大切だと感じた。
22	たくさんの意見を持つ人と交流でき、私が参考にしたい素晴らしいディベート力を持つ人を見ることができたから。	初めてディベート大会というものに参加したけれど、とても有意義な時間でした！ディベートが上手い人は、まずアイコンタクト、論理的展開が具体的で、よどみなく言葉をつなげていたことが印象的でした。今回のディベートに参加したことで、どうやったら人を引きつけるスピーチができるのか、知ることができました。今後も英語のディベートを訓練していきたいです！
23	自分の語い力の無さ、聞き取る力の無さが痛感できた。	特になし
24	自分では考えられない意見、表現がたくさんあり、とても参考になったから。	ここで学んだことをぜひとも日々の生活に生かしていきたい。また、このことを多くの人に伝えて、よりたくさんの人とディベートをして、より楽しい経験をつみたいと思います。
25	常に頭をフル回転させてぶつけあうのが面白かった。とにかく何か言うことが大事だというのが新鮮だった。	学校ではできないハイレベルなことだったのでディベートってこんなものだったんだ…と再発見できた。
26	きちんとディベートという形で賛成、反対を言いあいを英語で他校とできたのは面白かった。	次回も出てみたいと思ったがそのためにはボキャブラリーを増して、それを使って聞けるように、話せるようになっておきたいと思った。
27	勝つことができた。いろんな人と交流できたから。	ディベートは難しいんだと改めて感じた。将来グローバル化がどんどん進んでこういう能力はどんどん求められてくると思うのでよい経済になったと思います。
28	今までこのような経験がなく、新鮮だったから。	とても楽しく、今までこの大会を知らなかったことを残念に思った。これを機に英語の能力をもっとみがき、今後の高校生活、大学生活に生かしていきたいと思った。
29	他校や教員のディベートをきけたから。	とても貴重な経験となった。厚木高校は飛び抜けて表現力があって声の大きさやジェスチャーは自分が思っていた以上に影響があると学べた。これからもずっと英語を勉強し、英語で学びたいと思った。
30	POI でより議論を深めることができたため。	他の高校のレベルの高さに驚いた。先生たちのディベートも面白かったです。
31	ディベート自体は、楽しかったけれど、自分自身はあまり上手くディベートができなかったからです。	ジャッジの方が言っていた、その言葉がどういう意味なのかということを考えられていなかったと感じました。あと、対戦した方や、他校の方の、伝えようとする工夫にこういう方法があるんだなぁと思いました。
32	自分の実力を知ることができて、他の同じ学年の生徒さんに比べて、まだまだだと感じた。本番ということもあり、緊張してしまって全く上手くできなかったため、楽しさよりも苦しさが強かったです。	本当に緊張しました。何も聞きとれなくて、何も頭に浮かんでこなくて、自分にとってベストな主張ができませんでした。しかし、もっと英語ができるようになりたいと強く思いました。先生方のディベートを見て、スラスラと自分の主張を言える所、ユニークさを交えながら、詞論している姿が本当にかっこ良かったです。私も、もっと英語の力を上達させたいと思える、よい機会になったと思います。

ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
33	言葉につまることがなく、自分の話したいことを自由に話せたから。	POI は必ず受けなくてはいけないのかと思っていたが、意外と話せる人が多くて驚いたが、やや気が楽になった。POI を断られたのが残念だったし動機は、POI で聞きたかったことをそれとなく自分の主張に入れられたらよかったなと思う。緊張でうまく話せないのではと心配したが、そんなことにはならず、しっかり話せたと思うので、後悔はない。一回目で気がついたことをいかして堂々と話すことができてよかった。POI もきっぱり対応できた。
34	自分の意見を伝えるときに日本語→英語におきかえることが難しかったけれど楽しかったです。	先生方のディベートを聞いているのが一番楽しかったです。ですが、単語の意味が分からないと周りが笑っているタイミングでうまく理解できなかったりして悔しい気持ちもあったのでこれからも英語の勉強を今日の貴重な経験を生かして頑張っていきたいと思います。
35	自分の意見を述べられた時の達成感があったから。	2回とも MO で反論していたのですが、相手の意見を崩せるような効果的な反論が上手く出せなかった。後になって「もっと深く掘り下げて言えば良かった」と思うようなところがあったりしたので、悔しいです。
36	緊張していたけど、すごくいい経験になったし、司会の人に良かったところをいわれたら、うれしかったからです。エキシビションもすごく感動しました。	やっぱり聞きとれないところや、言いたいことがうまく表現できないということがあったので、リスニング力や単語力をつけたいと思いました。エキシビションで英語をすらすら言えていて、本当にかっこいいと思いました。もっと英語をできるようになりたいと思いました。
37	前回同様にディベートに活かしていけることをたくさん学べて、またやりたいと思えた。だけど、上手に表現できなかったところがあって悔しかった。	すごく頭を使うし、表現しようと頑張るから、脳がとっても鍛えられている気がして嬉しかったし、他のことでも絶対役に立つと思う。自分にとってはこんなに難しいことなのに、エキシビションされていた方々は自然に楽しそうにやっていて羨ましかったし、もっともっと英語を頑張りたいと思った。ああいったハイレベルなものを真近でみれて雰囲気を感じられたこと、来て良かったと思った。
38	自分と違った考え方をきけたり、新たな視点を知ることができたから。ジャッチの人に自分たちの考えを理解されていたことがうれしかったから。	前回の練習会に比べ、反論や立て直しをしっかりとできたり、POI をたくさんやっている学校が多く、内容がより深くできたと思います。またお題から論理を考えを、英語で自分の意見を言うという経験は普段なかなかできないので、とてもよかったです。また、期会があればやりたいです。
39	トピックが興味深かった。	昨年も参加していたのですが、今年は教員によるエキシビションもあり、おもしろかったです。
40	知らない人とディベートを通じて仲良くなれたから。	練習会のときよりも POI が多くて、より内容が濃く楽しいディベートを経験することができました。ジャッジの講評も詳しく、英語だけではなく考え方や伝え方など様々なことも学べてとても良かったです。
41	題材が面白かった。	本当にいろいろな経験をした。
42	今まで練習してきたことが活かせたり、また新たな失敗からたくさん学ぶことができたから。	いつも以上に緊張し、焦ってしまった。だから練習のときのように思うように話せなかった。しかし、先輩たちに支えてもらいながらできたので楽しめた。他校の生徒さんたちはとてもレベルが高く、圧倒させられてとても励みになったと思う。来年もぜひ参加してリベンジしたい。
43	他校の方と、ディベートができ、コミュニケーションをとれた事！！英語を使うことの重要性について、もう1回知れた！！	・いろいろな方とふれ合えて楽しかったです！！・すごく英語が得意な人を見る事ができて、いいモチベーションを持つことができました。・今回、2回目の参加でしたが、2回とも、とてもとても楽しかったです。
44	レベルの高い集団で学びあうことができた。	これからも挑戦していきたいです。
45	普段は全くやらない英語での実践的な会話を通して行うディベートはとても新鮮で楽しかったです。	先生のエキシビションを見て当たり前ですが英語力による表現の幅が全く違うと思いました。英語をもっと勉強してからもういちどやりたいと思いました。
46	授業とは全然違って、初めての経験であり、刺激になりました。	同じチームの仲間と一体となって取り組んでいるのが印象的でした。授業でもっとやりたいと思ったけど、１人１人が前向きじゃないと成りたたないかなと思いました。Writing や reading の勉強だけではほとんど意味がないと身にしみて感じました。自分の中で、speaking や listening に対する考え方が変わりました。小さくてもできることから始めようと思いました。

ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
47	自分はあまりうまくできなかったけど、他の学校の人がみんなとても上手で刺激になったから。	今日はあまりうまく話すことができなくて、他の人の実力を見て私もこんなにできるようになりたいと思ったので、これからもっと頑張って勉強しようと思った。今までディベートに興味がなかったけど、今日を通してもっとやってみたいと思ったので出てよかったです。
48	難しかったけれど、本気で伝えようと頑張れたから。うまくいかないことばかりで悔しかったけど楽しかった！	伝えたいことが上手く伝えられてなかったり、相手の伝えたいことを理解できなかったりしたので、英語を“使って”コミュニケーションをとることは難しいと感じた。文法とかを正確に覚える英語とは別に使える英語を学ぶ場も増えるといいなと思った。
49	元々そこまで英語が好きじゃないし得意でないから、でも苦痛ではなかった。	英語スラスラでたり、発音が良かったり、文のアクセントが上手な人がいてすごいと思った。前回の練習会よりも、自分も少しだけ上手く喋れた気がする…。
50	自分の英語力を試す良いきっかけとなったから。	他校の方のほうが論理の組立てが上手だったなと感じた。もう少し相手に伝わるように英語を組立てればよかった。個人的には POI ができなかったのが残念だった。
51	・自分の意見を論理的に話すという経験ができてよかった。	・とても緊張したが、この緊張の中で英語で話す経験ができたのがよかった。・他の人の話し方に圧倒された。その状況でも自分の考えを伝えられるようにしようと思う。
52	英語で意志を表現することがこんなにも視野が広がることだと分かり、今までに感じたことのない感動を受けたから。	はっきり意志を伝えることがこんなに難しいことなのかと改めて感じた。頭では浮かんでいるのに言葉にできなかったりとてももどかしかった。これを克服するには、何度も経験することが近道だと感じた。
53	自分の主張をしっかり伝えることができたから。POI に答えられたとき。	・普段は同じ人たち同士でしか練習することができないが、今回のような機会があることで、色んな人や様々な考え方や反論の仕方を学ぶことができ、とても勉強になった。・また、いつも指導してくださっている先生とは違う先生にジャッジをしていただくことで、新たな意見を聞くことができ、新鮮で、かつ参考になった。
54	空欄	POI をとれなかったのが心残り。次は POI をして、とります！
55	普段、英語を使って、自分の意見を発表したりする機会がないので、初めての機会だったのですが、文法など気にすることなく話せたときに伝わったような気がしたから。	すべてが初めてで緊張してばかりではあったけれど、自分のもっている少ない語の中で、表現することができることを知った。また単語を知っていればしっている程、説明がしやすいと思った。学校の授業では教科書の本文や、新出単語などの音読や発音練習といったところでしか speaking の練習をすることがないので、授業にも speaking の場がもっと増えたら良いと思った。
56	課題も多く見つかり悔しさは残ってしまったが、全力を尽くすことができたから。もっと向上したいと強く思えたので嬉しかったです。	相手の意見と自分の意見を比較し優位さを示すことは難しく、思い通りに行かずに悔しかった。
57	いろんな人のディベートが聞けたし、自分のできたことやもっとこうしたいっていうのを見つけることができたから、何より英語で話せることが幸せ。	自校のライバルと同じチームだったけれどベストディベーターをとれてめちゃくちゃ嬉しかったです。けれどエキシビジョンには出れなくてすごく悔しかったので、もっと頑張って次は私が出ます！！今回はほんとうに自分の改善点がはっきりと見つかったので、西校までにできるように練習してきます。あとは POI がもっとできるように！！
58	言いたいことをちゃんと主張できたし、それがポイントとなって、押し倒せたから。	厚木高校の迫力がすごかった。エキシビションをみてると、自分がやるだけでは気づけなかったことまで見れた。もっと相手が何を言っているのか、ギモン点はどこかなど聞く力もつけて POI なども上手く活用していきたい。
59	前に参加した鎌倉高校でのディベートよりも多くの高校が集まっていたので色々な校風のディベートに触れることができたから。	・PM の Definition が上手くできなかった。言葉が出てこなくてつまってしまったり、発言した単語が judge に伝わらなかったりしたので、後悔の念が強かった。チームとしては勝利したがモヤモヤした終わり方になってしまったので次回はこれらを克服していきたい。・身ぶり手ぶり、アイコンタクトにも気を配りたかった。・POI できなかった…（まずは speaker の言っていることを理解することが必要）
60	自分の意見がしっかりと相手に伝えられたときや、相手に対する反論ができたときに達成感があって嬉しかった。	他の高校のディベートの様子を見れて、大きな刺激となりました。特に厚木高校の様子を周りで見ていましたが話し方が相手に伝わりやすく堂々としていて、参考になりました。エキシビションディベートでは、内容や話し方の工夫を知ることができました。

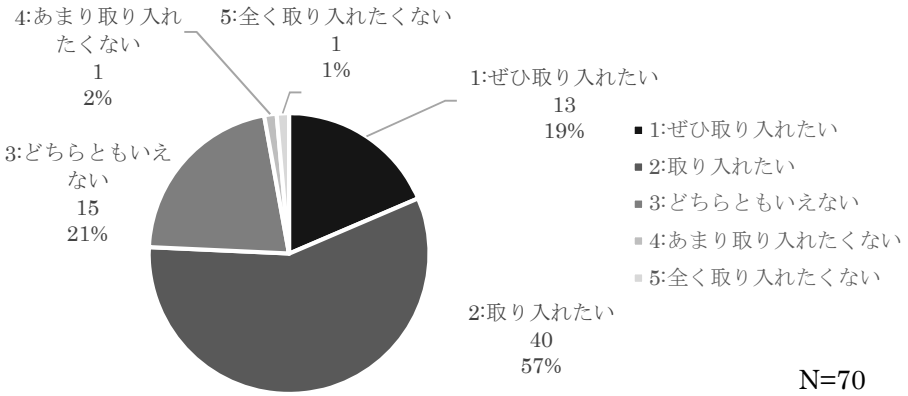
ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
61	他校の人と交流ができた点	自分が思っていたよりやわらかい雰囲気で進んでやりやすかったです。上手く伝えられないことが多々ありましたが、相手がうなづきながら聞いてもらうことで、対戦相手というよりは自分の意見をよく聞いてくれる人に感じて、嬉しく思いました。先生からのアドバイスも英語の話し方だけでなく、社会のことも教えていただき本当にタメになりました。
62	他校の方々と英語で話す機会がめったにないので、今回“英語で伝える”という難しさを感じたがそれと同時にもっと英語でスラスラと話せるようになりたいと思えたから。	前回他校の方とディベートをやったときよりは、話すことができたかなと思う。しかしまだまだ英語力は低いなと改めて思った。あまり、反論、質問が出来なかったが他校の方々はしっかりと話していてすごいなと思った。
63	他校の方々と英語をつうじて交流できたから。	とても緊張したが自分の意見をしっかり伝えられたのでとてもよかった。また、自分自身の課題をみつけることができたので今後それらを改善できるように努めたい。
64	身近なテーマが多かったし、前回よりも上達したことを実感できたから。先生方のユーモアも交ったディベートがとても面白かったから。	POI に挑戦できなかったのがとても悔しかった。時間制限に焦ったりして、大変だったけれど、とても深く集中してチームのみんなと協力してディベートができてよかった。エキシビションマッチはいいところや参考にしたいところがどんどんでてきてとても面白かったし、あれぐらいになりたいなと目標ができて良かった。
65	自分の良さを出せて楽しかったところもあったが、相手の説得力が強くて悔しかったこともあったから。	他の学校の人と交流できてよかった。自分の英語が通用したところもあればまだまだなところもあったので、これから英語を勉強していくうえで改善していこうと思った。
66	自分が伝えたいことをどういうふうに説得力をもたせて説明するかを考えたり、ディベートの中で、相手校から自分が思いつかなかったことがでてきたりしたときに面白いと感じました。	今日は練習でやってきたことを意識して、練習のときよりもよくできたと思うしおちついて話せたのでよかったです。また、何より他校のディベートや先生、生徒のエキシビションマッチも見れたので、本当にいいけいけんになったと思います！楽しかったし勉強にもなりました。
67	ベストリベーターに選ばれた！	少し緊張したけどたくさんの人と交流したり、英語を話すいい機会だったと思う。ディベートも楽しいけど対戦相手と話すのがたのしい！
68	色んな学校の方と話せて楽しかったです！	まさかエキシビションディベーターに選ばれるなんて思っていなかったので、とても驚きましたが、一応話せて良かったです！学校でやった練習会のおかげだと思います！全く話せなかった私が話せるようになって良かったです！本当にありがとうございました！！
69	前回の練習会よりも笑顔でやれたので楽しかったです	とても貴重な体験できたのでこれからもやってみたいと思いました.POI を言ってみたかったけど言えなかったのは残念でした。
70	空欄	出場させていただきありがとうございました。生徒達の皆さんが、教員ディベートをたのしんで見てくださって、本当によかったです。
71	他校の生徒の様子を見ることができて教員にとってよい刺激になりました。	東大生のジャッジコメントが分りやすく的確で非常によい勉強になりました。
72	生徒が真剣かつ楽しそうにやっていたので。	生徒の成長の姿が見られました。１人１人が一生懸命していて、練習すればその分、上手にディベートができるようになるとよく分かりました。
73	英語を活用する場が提供され、生徒たちがその中で全力を出し切ろうと努力していたこと。	ディベートの成功は英語力のみによるものではなく思考力、論理性、理解力、表現力等を合わせ持つことが大切であることを実感できた。英語が伝達手段であることが再確認できた。
74	優勝したから。色々な高校のディベーターさんたちと交流して、視野も広がったから。	モーションは、すごく多くの方向から見れて良かったです。ジャッジによる点数の差などがないように統一してほしいです。
75	他校との交流ができたから。	フォードバックがとても参考になりました！！楽しかったです。もっと試合やりたかったです！！
76	ディベートには参加せず、見学という形だったのですが、自分と同じ高校生の英語力プレゼン力にとても刺激を受け、又、Judge の方の公表を聞くと、ディベートの奥深さを感じました。「即興」というのがすごかった。	学校の授業でも、今日のような活動をしてみたいと思いました。自分の言いたいことを英語で伝えるのはとてもむずかしいし、それを一貫性をもつこともむずかしいことで、今の学校のような、ただ説明される受動型の英語ではいけないのではないかと思いました。時事問題や長年の地球問題などで、またディベートしてみたいです。貴重な機会をありがとうございました。
77	他の学校の人達とディベートという、普段なかなかできないことができ楽しかった。POI が言えてよかった。	練習の成果を出せたと思う！！実際とディベートをしている大学生からアドバイスをもらえて、すごく勉強になった。今後もディベートをやってみたいし、よりよい意見を構築ができるように心がけたいと思った。

ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
78	今までチームメイトか先生とかしかしたことがなかったので他校の人とディベートするのが新鮮だった。また他の人の考えも聞けたのでよかったです。	今までの練習の成果が出せたと思います。またジャッジの方（2回戦目）のアドバイスを聞いて一貫性をもっていたらもっと良かったのだなと思いました。ただ残念だったのが１回戦目のジャッジの方が人が話している時他の班のディベートを見たりしている回数が多く、他の人がすごいのはわかるがディベートの話を聞いていないのではないかという印象を受けました。先生方のディベートを聞いてとても面白かったです。疲れました。ありがとうございました。
79	練習より自分の意見をはっきりと言えて良かった。ただ、まだ、うまくいえないことが多くてもどかしかった。	ディベートを通していろんなものの考え方やいろんな人の考えを知れて、自分の英語力も少しは上がった気がするので一石二鳥だった。ディベートは自分のしっかりとした主張も必要なので、もっと自分の考えをしっかり持とうと思った。
80	他校の人とディベートするのは初めてだったので、とても良い刺激になったし、今回もらったアドバイスを活かして、もっと練習して上手くなりたいと思った。	今回の大会で、今まであまり使うことができなかった POI を使うことができて嬉しかった。自分の苦手なところも今回を通じて把握することが出来たし、もっともっと上達したい。ディベートを通じてチームのみんなとも仲良くなることができて嬉しかった。とても精神力を使った気がする。疲れ果てた。
81	今までの練習の中で、同じチームの仲間とチームワークと確立できたし、英語を使ったコミュニケーションがたくさんできたから。	練習で培った語彙力を発揮することができたと感じた。英語で意見を構築するのは、練習していたとはいえ難しく、間違いがなにのかと心配になった。ただ、ジャッジの方のお話を聞いていると、言い方も大事だが内容も大事だと改めて気づくことができた。
82	昨年よりレベルが高くて楽しかった。	昨年よりも簡単でわかりやすいトピックだった。
83	どうやったら相手の意見に対してきちんと反論できるかを考えるのが楽しかったから。	まだ、文法力も単語力もまったくないので、もっと文法力、単語力をみがいてまた来年参加したいと思った。
84	多くの高校と戦うことができたから。	POI のルールや制度をもっと決めてほしい。
85	普段の練習では味わえない緊張感の中で試合ができてよかったです。	本当に緊張したけど、その中でいい試合ができてとても楽しかったし、本当にいい経験になりました。2つのような機会を設けてくださり、本当にありがとうございました！
86	相手校の方との交流ができたから。	今まで練習した成果を出すことができたが本当に嬉しいです。またラウンドではジャッジの方や他校の方の話をきいて自分の改善点がみつかりました。次は全国までさらにレベルアップできるようにがんばります。
87	仲間と協力しながら、論を組み立て、英語で伝えようとするのが、楽しかったから。また、他の高校の方々と交流するのが良い経験になったから。	今日のディベート大会は新しい多かったです。ジャッジの先生のディベートがおわった後の振り返りのときのお言葉がとても参考になりました。悔しい結果でしたが、良い経験になりました。
88	新しいことを沢山学ぶことができたから。	これまでも自分の学校内でやっているだけでは得ることのできない視点を得られたと思う。練習のときよりも上手く論を立てられなかった部分もあるが、他校の生徒の主張の仕方に影響を受け、身振り手振りをつけたり、書いたのを読むというのをできるだけ避け、アイコンタクトを行ったりすることを意識できたので、よりディベートの技術を高められた。人数が多かったため1試合しかできなかったことと、練習の成果を出し切ることができなかったのがとても心残りなので、これからも校内での練習を重ね、来年、もしくは（出場できない）来年のディベート大会に出場したいと思う。
89	英語を活かせた、ディベートができた　メンバーと考えた　知らない人と戦ったなど	このディベート（即興）ができる機会は少なくできてうれしい。他の高校の人達とできる。自分の人生についてと考えられる転機にもなるかもしれない。勉強の意欲が湧く場合もある。
90	生徒の成長を感じたので。他の学校の生徒と良い点も分かった。	私の指導はまだまだだ感じました。能力をもった生徒たちを育てるために、もう一度来年に向けて挑戦していきたい。
91	ジャッジの方からアドバイスを含め、とても良い経験になりました。視野を広くすることや幅広い知識、感心をもつことが大切だと思いました。	もっと沢山試合したかったです。
92	他校の生徒と交流出来た	他校の生徒と交流することでたくさんの刺激を受けました。今後に活かしたいです。

ID	Q1 の理由	Q2.本日の感想
93	初めのほうよりも相手の言っていることがわかったり、文を組み立てられるようになって、参加できたから。	偶然にも前回対決した厚木高校と再び戦うことになって、相手の話し方、知識量などのすごさを改めて感じることができました。心残りは、POI ができなかったことです。先生方のディベートを見学できたこともとてもうれしかったです。文を読み上げているというより、相手に語りかけているといった感じで、自分も真似したいです。こういった機会を設けていただいて、本当にありがとうございました。
94	ジャッジを2ラウンドできた。	生徒の笑顔が見られてよかった。一年間の成果を出すことができました。ぜひ全国大会に出場させてください。
95	内容が第1回と2回で全くちがうジャンルだったから。長かった。（4時くらいには解散してほしい。）前回と同じ相手だった。（メンバーも）	長時間座りっぱなしは辛かった。内容を（お題）もっとおもしろいものにしてほしかった。マナーができていない人には注意してほしかった。楽しかった。内容がアドバイスのし合いによって深まった。勝敗はもっとじっくり決めてほしかった。
96	ディベートを初めてやったときよりも少しだけれども成長したなというのを感じることができた。	初めてのころはボロクソだったけれど、回数を重ねていくうちに、ましになっていって、少しの成長だったけれど大きな達成感を得ることができた。特に「AREA」は意識してやった。その中でも Example には大きく触れて、やってみたりもした。これで一区切りついて、英語ディベートをする機会も少なくなるだろうけれど、また学校でやるきっかけがあれば、またやってみたい。
97	他校の生徒と交流ができたからです。	先生たちのエキシビションが迫力がものすごくありました。一度に多くのディベートが進行されているので、聞きとりづらく、他のディベートも見たいなと少し思いました。こういう機会があって本当に良かったです。ありがとうございました。
98	今日はわりと言いたいことが言えてよかったです。はっきりとした声で話すことができました。	少し緊張もしていたがなんとかいっしょうけんめいとりくむことができた。アイデアを多く出すことができたのでよかった。エキシビションも興味深く面白かった。よい経験になりました。
99	英語力向上を感じることができたし、論理的に考える力が少しついたと感じるから。	とても楽しかった。
100	空欄	話をする時に、道筋立てて、しっかりと一貫した話ができるようになりたいです。
101	これまで自分たちで練習していたときよりも、さまざまな視点からの意見がきけた。	ディベートをするにしても、英語で自分の意見を伝えるときの言い方や考え方が様々にあることがわかり刺激になった。
102	自分の意見をわかりやすく、英語を使って伝えかつ、相手の意見を理解し、立証できる反論をするということを経て刺激が得られたから。	人は一人一人違う存在であるため、必ずしも意見が合うとは限りません。このように人々が異なる意見を持つ中で、社会を成り立たせるには、話し合い等を経て、お互いに納得できる面を探す必要があると思います。今回の交流大会はそれのとても良い練習になったと思います。
103	自分の弱点が分かったから。	単語力の重要性を改めて確認できた。
104	いろんな生徒の様子が見れたこと。ジャッジができたこと。生徒が更なるモチベーションを	ジャッジは複数いた方が良い（1人のところもあった）みんな熱くなっていた（教員もすごかった）またやりたい
105	授業では滅多に体験することが出来ない事を経験することが出来てとても刺激になった。	前回の練習体験ではやり方等が難しく、分からない所も多くあったが今日まで練習を積み重ねることのよって、ある程度はディベートで戦えるようになったと思う。
106	初めましての人とだったので緊張したけど、良い経験になったから。	今回の経験でもっと英語を頑張ろうとも思ったし、もっと英語が好きになれたのでよかったです。今日のことを生かして、授業でももっと堂々と話せるようになりたいと思いました。
107	前回の練習会よりも、できたので楽しかったです。	今回のような経験をすることはあまりないので体験できたので良かったです。

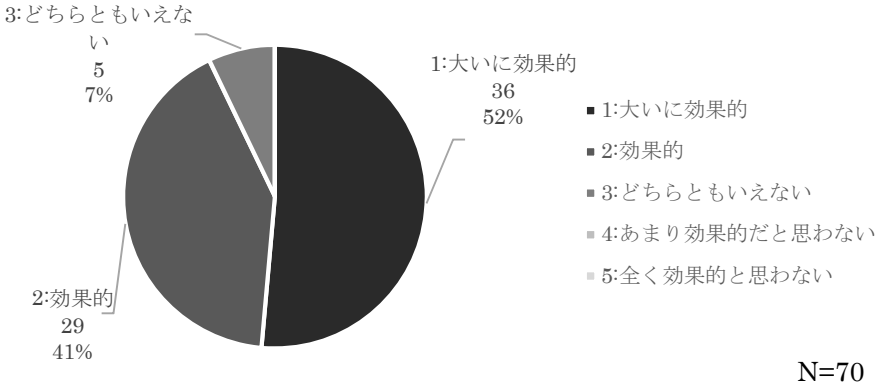
2017 年 10 月 20 日　第 1 回群馬県英語教育研究協議会

Q1ディベートを取り入れてみたいですか



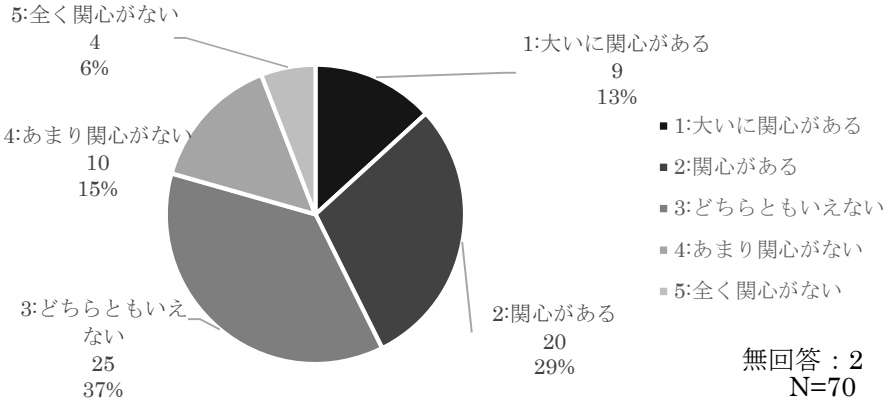
N=70

Q2教員の資質・能力の向上に効果的か



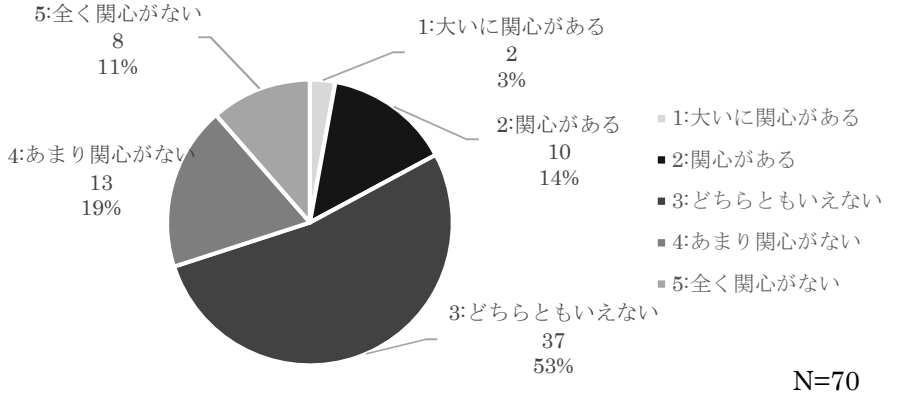
N=70

Q4ジャッジの認定制度導入に関心があるか



無回答：2
N=70

Q5第3回全国大会出場に関心があるか



N=70

ID	Q3.Q2 の理由	Q6.本日の感想
1	空欄	大学時ESSでパラのことは知っていましたが、実際にやってみると、とても楽しく、生徒の英語力向上につながると思いました。
2	英語で、理由をつけて話すことに慣れることができると思った。	とてもレベルの高い活動だと思ったが、練習すれば生徒もできるようになると思った。
3	即興的なスピーチがスピーキング能力の向上につながる	ディベートを実際に行ったことがなかったので、初めてやってみてよく概要がわかった。部分的にも授業で活かせそうなので、今後検討したい。
4	繰り返しディベートをすれば、話す事や内容の構成など向上させることができると思う。	とても難しく感じました。しかし回数をこなしたら、とても“力”になりそうだと実感することができました。
5	空欄	実習は不安でしたが、やってみると刺激になり、がんばろうという気になりました。また、スカイプでジャッジをしていただきコメントをいただき、たいへん勉強になりました。
6	論理的に物事を考えたり、表現したりするのに効果的だと感じた。	自分自身が本格的なディベートを経験するのが初めてだったので、良い経験になりました。
7	1．が実施は難しい。2．ロールプレイ(即興)はよい練習になると思うので。	大変でした。
8	聞く場、話す場を自分だけで作るのは難しいから	昨年、ディベート部を引率して参加して、高校生の試合を多く見ました。見ているのと、やるのでは全く違いました。また、ジャッジの力をつけることは教師として大切なスキルであると思いました。
9	生徒主体の活動であるから。	大変勉強になりました。ICT活用ももちろんですが、アナログ（？）な部分で最も大事な「自分の頭で考える」、そしてそれを Out Put する、ということが確実にできる活動の大切さを再認識しました。
10	4技能を満遍なく鍛えることができるため	久しぶりに集中して頭を絞って考えたので、達成感がありました。また自分の不足する部分も実感しながら楽しんで行うことができました。
11	4技能における全てのレスポンスが早くなるのが実感できました。	いつもいつも避けてきたディベートを初めて経験して、やってみて気付くことがたくさんありました。一部の生徒の方が積極的なディベートをさらに多くの生徒に広げるために、自分の授業にも取り入れることを考えていきたいと思います。
12	教員であっても、即興で行うのは大変だったので、とても良い経験になりました。	実際に体験して、大変ではありましたが、即興性のディベートの効果も身をもって学べました。ありがとうございました。
13	即興型（即興で伝えられる）の力こそが真の英語力であるから。	回数を重ねるごとに、要領を得ることができた。（幸い複数回行うことができた。）
14	話す機会が多くなることで話す際に余裕が生まれ、考えることができるようになる	考える時間が限られているので余裕を持てるようにしていくことが発表の際に重要だと思いました。
15	英語を教員自身が使い、資質、能力を高める必要があると私自身が実感しているので必要だと思いました。	ディベートは苦手でしたが、このような研修、体験ができ、とてもよかったです。ありがとうございました。
16	即興型であるところですばやい反応、論理性が身につくことと、相手に納得させるポイントと反論を根拠、具体性とも示す力がつくので日本人が苦手ではあるが必要な部分だと痛感します	心地よい疲労を感じることができました。ディベートのゲーム性がジャッジの方のコメントでよくわかりましたので、授業でも活用できたらと思います。
17	中毒的な良さがある。終わった後に、リベンジしたくなるから。	あっという間の3時間でした。ストラテジートレーニングも必要になると思うので、その方法も考えてみたいです。
18	論理的な思考力を自分1人では身につけることができないため	本校の生徒はそもそも日本語でもディベートができるのかと考えてしまいました。低学力の生徒が即興で話すことができるようには、どうすれば良いか、模索中です。
19	空欄	障害のある人の気持ちが分かった気がします。皆さんの言っていることが聴こえない、聴こえても理解できない、ディベートというものの流れがよく分からない、頭が全く働いていない、「一体、みんな何をやっているのだろう？」という感じでした。認知的な問題があるのかもしれません。

ID	Q3.Q2 の理由	Q6.本日の感想
20	実際にやってみないと、どんな点が、どんな注意が必要かわかるから。	積極的に授業に取り入れたいと思った。
21	impromptu の工夫が速くなると思います。	松本道弘氏の著書を数冊所有しており、内容だけは知っていましたが、ワークショップで理解が深まりました。
22	初めてのことでとまどってしまったので、色々と準備をする必要性を実感した。様々なことに反論、自分の意見を述べられるようにしたい。	空欄
23	その場で考えをまとめて英語で話すチャンスは教員もほとんどないので、生徒に自信を持って話す訓練として、良いと思いました。	勤務校でHenDaのディベート県大会に参加する生徒を指導中であることと、担当学年のうち2クラス（発展クラス）対抗のディベート大会を昨日終えたところでした。調べ学習が前提であるディベートは準備が間に合わないと最終の試合まで積極的に参加できないですが、このディベートはあまり勤勉でない生徒にも参加の余地があると思いました。
24	様々な事象に対する考えを深めるとともに英語を使う機会になる。より説得力のある表現について追求できる。	簡単な話題を使って回数を経験することで確実に力がつくであろうことを実感できた。
25	情報量や知識・考える力がもっと必要であると感じたから。	ディベートを自らやってみることで、授業に取り入れる際に生徒の実態に合わせて工夫することができると思います。
26	幅広い知識や技術に精通できるような仕組みになっているのと、役割に応じた英語使用を求められるため。	即興型のディベートは経験したことがなかったため、とても新鮮に感じた。実際に体験してみることで、全体の流れや仕組みについての理解が深まった。指導する際には、適切なアドバイスができるよう教員側が学び続けなければならないと感じた。
27	論理的に表現することを生徒に伝える側として、自分自身が論理的に話せるように訓練することは大切だなと思いました。	自分が何をどう話すか、idea を論理的にまとめるのがむずかしく、私自身訓練が必要だなと痛感しました。学校でも取り入れてみたいとは思いますが、時間を確保したり、英語科の先生間の共通理解をはかったりするのに工夫がかなり必要かと思ってしまいました。生徒にとっても話しやすく簡単なトピックでできる small discussion のようなものからスタートできると良いのかなと思いました。
28	教科書以外で英語に触れる機会が不足しているので、良いトレーニングになると思った。	自分の英語力と論理的思考力の乏しさがわかった。まずは自分の力を磨きたい。
29	ディベート指導の能力が、今後さらに求められると思うから。	まったく知らない即興型英語ディベートについて、短い時間でしたが実際に参加することができ、良かったです。最初に与えられる情報量が多く、できるかどうか不安でしたが、やってみるとゲーム感覚で楽しく、自分の話をうなずきながら聞いてくれると、嬉しい気持ちになりました。生徒にも体験させたいです。
30	その場で考え、すぐ反論する…といったように語彙力や文法力がためされる。英語力に磨きをかけよう、と思うきっかけにもなり、実際に磨きをかける場にもなる。	空欄
31	生徒の立場を体験することでどのように指導すべきか、課題が明確になった。	ディベート指導は自信がなくなかなかとりくめませんでしたが、よい機会になりました。今後チャレンジしていこうと思います。
32	英語を理由つけて、話す良いトレーニングになるから。	実際にやってみて、楽しさと大変さを感じました。ある一定のレベル以上の生徒にとっては非常に良いトレーニングになると思います。
33	どうしても話さざるをえない状況になるから	Sport をしているみたいでたのしかったです。
34	生徒にさせるのに、自分で経験するのは大切だから。	・Judge のしから、AREA をどのように生かすか、MO は言わなくてはならないことがたくさんあるので、その配分などについてもっと知りたいと思った。・やってみると、途中に話合いができないのが、大変だが、その分よくきかなくてはならないので集中する
35	論理的に英語で内容のあることを話す力をつけられるから。	貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。知的な刺激に満ちた体験でした。

ID	Q3.Q2 の理由	Q6.本日の感想
36	授業におけるコミュニケーション活動の１つとして、良い例。	最近ディベートに興味があったので、非常に参考になった。
37	空欄	やらせるためには、まずやってみないとですね。Speaking の活動の１つとして、機会があれば取り入れたいと思います。
38	空欄	空欄
39	論理的思考、および発表能力	授業の時間や英語科の教員の理解があれば、ぜひ行いたい。
40	論理的な英語の会話力が身につく、と考える	授業へのディベートの採用によって英語力の誠だけでなく、生徒同士のチームワークの誠にも役立つと思いました。ありがとうございました。
41	実際にやってみることで、大変さや達成感を得ることができた。生徒の指導に大変役立つと思う。	午後からの参加ですが、とても充実していました。校内で共有していきたいと思います。
42	時間対効果に疑問です。	中川助教は、1日3回3ヵ月続けたら7分間即興で話せる様になったと言われますが、それを専門科の多い実業高校、へき地校、教員困難校でも実施できるとお思いですか？講演の前提が「英語に興味、やる気ある」で話されていますが、もう少しシンプル化すれば、出来るかな？と思います。
43	現在の能力をもってけん命にとり組んだだけですので。	この取り組みは面白いと思いました。生徒に授業で話をさせたり、ディベートをさせたりすることが、どれだけ大きなプレッシャーを与えているかよく分かりました。
44	英語力は向上するかもしれないが、指導力が上がるとも思えない。	短時間で集中して論理的に思考することが普段あまりないのでとても疲れた緊張を強いられるので、慣れていないと苦痛が大きい。ただ、ディベートそのものは楽しいゲームだと思う
45	空欄	実業高校だからできないということはないとおっしゃっていたので、このままの形でできなくても形は変わっても自分から発信できるようになる活動を取り入れていかなくてはいけないと強く思いました。そして自分の勉強のために、もっとやっていきたいと思います。ありがとうございました。
46	ゲーム感覚で、論理的に英語で話す練習ができるから。	とても難しかったが、やっていて勉強になった。
47	英語の練習になりました。即興が一番英語力が出ると思います。普段は、クラスルームイングリッシュしか使わないので。	生徒の気持ちになりながら、取り組むことができました。ジャッジの生徒にも何か負荷をかける仕組みが必要かな、と、感じました。
48	自分のできなさを痛感できながら	プレッシャー下で話すのはとても緊張しました。久々に真っ白になりました。先生がハキハキお話しされるのでとても気持ちよく学習できました。ありがとうございました。
49	校内、地域で定期的にディベートする機会があるといいと思う。	discussion&devate は好きだったので、論理的思考などアドバイスいただけて勉強になった。
50	トピックをうまく選べば、比較的身近な話題について英語で話す良いチャンスになる。	自分の無力さを再認識する良い機会となりました。生徒のためにまずは自分の力を伸ばしたいと感じました。
51	即興性が必要になるので英語で言わなきゃというプレッシャーが達成感につながりました。	緊張しましたが、とても良い機会になりました。生徒の気持ちが分かった気がします。
52	「英語力」ではなく「論理的思考力」や「スピーチ力」は、授業研究だけでは磨けないと思ったからです。	すごく疲れました。誰かと議論する、誰かを説得する、というのはものすごく頭とエネルギーを使うんだなあと思いました。しかし、実生活においてもすごく大切なスキルであるなあと思い、ぜひ授業にとりいれてみようと思いました。
53	論理的思考力を向上させられる、英語の練習となる。視野が広がる	一言で言うと疲れました。ふだん考えもしないことを、短時間で考えたり、相手チームの言っていることをよく聞いて反論したりと、大変でした。しかし日本でこのような活動がもっと普及していけば、日本人の知的レベルももっと上がるのでは？と思ってしまいました。
54	論理的思考のいい練習になる。	こんなにエネルギーを消耗する活動だとは思わなかった。授業への導入に際しては配慮したい。
55	いつも、生徒にやらせているばかりでしたので、大変さがわかったのと同時に、指導のポイント、発想の転換の勉強になりました。	楽しかったですが、疲れました。普段から、情報収集だけでなく、考える習慣を、自分もつけるべきだと思いました。

ID	Q3.Q2 の理由	Q6.本日の感想
56	即興型英語ディベートが、普段の生活でどのように役立つか（実業高勤務だと）あまり実感できなかったので。	即興で論理的にまとめるのが難しかったです。ディベートのやり方説明もそうですが、一度に情報量が多すぎて理解が追いつきませんでした。でも、できるようになったら楽しいと思います。
57	英語運用能力を高められるから。	実際に2回体験することでディベートがどういうもの（効果が期待できる）かよくわかりました。ありがとうございました。
58	絶対に英語で自分の意見を言わなければいけないというプレッシャーはつらい！もっと英語運用能力を高めたい！と思ったから。	まず生徒達に、論理的思考を教える必要があるなと思いました。
59	英語を即興で使うというスキルアップの点だけでなく、自己主張ばかりではダメで、相手の意見をふまえて自分の意見を印象づけて論ずる訓練は、貴重だと思いました。	以前、研修でディベートを実践した時には、各スピーチの間に準備する時間が与えられたのですが、今日は全くなくて、チームで作戦を考えるというより個人の判断の部分が大きかったかな、と思いました。
60	教員自身がいかに論理的に考え話すことができるのかという場を持てるのはよいと思う。	とても負荷のかかるよい英語トレーニングになると思う。しかし論理的な物の考え方を身につけないとなかなかむずかしい。ディベート自体が論理的な考え方、話し方をするトレーニングになるとも思う。
61	初めて英語ディベートを体験しましたが、うまく言えたり、予定していたことが言えなかったり悔しさがあるのにとってもそう快で、勝敗があっても日本の文化と合わないなどということはなく、とてもクラスメイトと仲が深まりそうだと思いました。	３番と同様です!!先生を講師として学校にお呼びすることは可能ですか？
62	「準備ができない」ことが一番効果的だと思います。「使える英語」という視点がいいと思います。	話すことよりも聞くことのほうが労力がいると実感しました。充実した研修ありがとうございました。
63	自分でやってみないと生徒の気持ちがわからない	テンポよく2ラウンドでき、ジャッジからの feedback も得られてよかったです
64	周りの先生方から刺激を受けました。モチベーションUPにつながると思います。	私も大学時代にE. S. Sに入っていましたので、今回の講演はとても興味深かったです。ディベートセクションではなかったので、今回のような機会はとてもありがたかったです。言い負かすということが苦手で、これまで距離をおいてきましたが、歩みよってみようという気になった3時間でsじょた。本当に素晴らしい講義をありがとうございました。
65	日常で英語で意見を言う機会はあまりないし、短時間に2回体験しただけでも4技能が鍛えられるのを実感したため。	なかなか自分一人ではやれない貴重な経験ができ、またチームのお二人とも非常に親しく連体感を持てたので、来てよかったです。授業でも少し準備時間を取ればやってみる価値があると思いました。ありがとうございました。
66	たくさん考え、話さなければならない状況に追いこまれるので、もっと勉強しようという気持ちになる。	自分が実践できたのがよかった。指導する方にまわることはあっても、ディベーターになる機会は少ないので。型が決まっているので、やりやすいと思った。
67	実際にディベートの流れ等を経験できるので。	即興英語ディベートを体験でき、同じチームの人との意見交換や相手チームの意見を聞くことができ、ディベートを通じていろいろな考えをも交換できることがわかりました。
68	伝える力に加え論理的に考える力もつくので効果的だと思います（言いたいことがうまく言えない自分の能力も自覚できました。）	ワークショップということで「ディベートするのかな」と少し気が重かったのですが実際に体験できて、緊張しながらも楽しめました。自校のレベルに合わせて少しずつディベートのような形式を取り入れられたらと思います。
69	英語で即興に表現しなくてはならないので回数をこなす事で発信力の強化になると思います。	初めてディベートなので方法論をもう少し学んでから本番に臨みたかったと思います。
70	先生の意欲の差が大きすぎる。	論理的思考をして out put することは先生方が普段から資質向上させることをモチベーションしてくれると思う。人がどのように考えるかを伝えたり聞くことはとても大切と思いました。

3. 結果分析（考察）

・継続研修における修了証

神奈川県教育委員会での研修において、全 6 回中 4 回以上出席した教員 16 名に修了証を授与できた。皆勤賞は 5 名であった。

・PDA 認定教育ジャッジ制度（認定試験自体がアクティブラーニングの要素を持ち、指導力に直結する資格制度）

受験者数は、述べ 39 名（筆記 12 名、ディベート実技 12 名、ジャッジ実技のべ 15 名となった。内、神奈川県述べ 12 名（筆記 5 名、ディベート実技 3 名、ジャッジ実技 4 名）

神奈川県教育委員会における教員研修会について、名簿上の登録は 48 名（英語科以外も含む）であった。よって、3 分の 1 の教員が継続的に参加（全 6 回中 4 回以上出席）したことがわかる。また、複数回参加した教員は 37 名である。よって、4 分の 3 以上の教員が単発ではなく、再度の実践機会を得られたことがわかる。教員は日々多忙であり、一度の研修に参加するにも予定調整に非常に苦労する中、多くの教員が研修会に継続的に参加することができたことは一つの大きな成果と言える。その最大の理由には、神奈川県教育委員会では、今回の研修参加を公務での参加とできるようアレンジしたことが挙げられる。

次ページより、神奈川県教育委員会をはじめ、研修会参加者、有識者によるコメントを示す。

本調査研究において最も特徴的なことの一つが、神奈川県教育委員会では、PDA 教員研修会について教員の公務での参加が整備された点である。教育委員会によって即興型英語ディベートを連続的に公務として教員が学べるようにした取り組みは全国初と言える。それに至るまでの経緯や成果について、神奈川県教育委員会 高校教育企画室 時乗洋昭氏に説明いただく。

また、上記研修会をサポートいただいたグローバル教育研究ＷＧ代表および神奈川県立柏陽高等学校 校長 井坂秀一氏より、研修会参加校の校長としての教員への後押しを含め、コメントをいただく。なお、柏陽高校は、第 3 回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会（於 東京大学、2017 年 12 月 23 日、24 日）において、全参加高校のうち最も多く教員ジャッジを派遣し、即興型英語ディベートの全国的な指導に貢献した。

次に、研修会に多く参加し、地域交流大会に加え、全国大会にも参加し、生徒による評価でベストジャッジ賞上位に入賞された神奈川県立柏陽高等学校 教諭 廣瀬彩乃氏に研修で学んだ即興型英語ディベートについて考察いただく。廣瀬氏は、全国大会でのベストジャッジ賞上位入賞者に与えられる第 3 回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会（於 ホテル日航関西空港、2018 年 1 月 19 日～21 日）への出場権を獲得し、同大会においてもジャッジとして参加した。日本の正規の授業で実施可能な即興型英語ディベートの経験、指導は、地域交流大会、全国大会、世界交流大会においても活かされた。

同様に、研修会から世界交流大会までのジャッジ参加をされた神奈川県立厚木高等学校 教諭 林弘一氏より、研修会参加者の視点より率直な感想をいただく。林氏は、英語科ではなく、社会科の教員である。本研修会では、ほかにも英語科以外の国語、数学の教員が参加された。英語科以外の教員も英語を用いる発表などの機会が今後増えることも想定され、よいトレーニングの機会であると考えられる。また、即興型英語ディベートは、英語だけでなく、論理的に思考する力やチームでの協力など、決して英語だけに着目される活動ではない。今後、英語科以外の教員にも同氏のコメントを参考にされたい。

そして、研修会に参加し、PDA 認定教育ジャッジ試験の受験資格（ディベート実践 6 回以上、ジャッジ実践 6 回以上、PDA 個人会員）を満たし、受験、試験に合格された神奈川県立横浜緑ケ丘高等学校 教諭 近藤飛鳥氏の自身の成長に関する考察をいただく。近藤氏は、PDA 認定教育ジャッジ試験のうち、筆記試験、ディベート実技試験、ジャッジ実技試験、すべてにおいて 1 回で合格をし（全試験 1 回合格はめずらしい）、PDA 認定教育ジャッジ資格を得た。

最後に、本調査研究内容に関する有識者コメントとして、熊本県立八代高等学校・八代中学校 校長 山本朝昭氏に見解をいただく。山本氏は、前任校（熊本県立濟々黌高等学校）在籍時より、即興型英語ディベートの学校内での導入に取り組み、現在は中学校から授業において即興型英語ディベートを実施している。

3・1・1

神奈川県教育委員会における PDA と連携した英語教員の人材育成について

神奈川県教育委員会 高校教育企画室 時乗 洋昭

1 これまでの経緯

○ 平成 26 年度に県立湘南高校の生徒が初めて、都立西高校で行われた即興型英語ディベート交流会に参加し、生徒の変容を通して、その教育的効果の高さを実感する。

○ 平成 27 年度に、即興型英語ディベートが持つ教育的効果の高さに着目した湘南高校長の提案により、湘南、横浜翠嵐、柏陽、厚木、小田原、平塚江南の 6 校が協働して『即興型英語ディベート交流会 in かながわ』を開催する。

○ 平成 28 年度に県教育員会より高校改革計画の一環として、湘南、横浜翠嵐をはじめとした 17 校が、新たに学力向上進学重点校エントリー校（以下「エントリー校」）として指定されたことを受けて、平成 28 年度は神奈川で開催する即興型英語ディベート交流会の対象校をエントリー校 17 校に拡大した。

○ 平成 28 年度までの取組は、校長有志や校長間の研究グループによるのもであったため、イベントとしての交流会の開催はできたものの、英語の授業改善につなげるための継続的な取組は困難な状況であった。

○ 即興型英語ディベートが持つ教育的効果を最大限に発揮するためには、授業での実践が必要であり、そのためには、即興型英語ディベートにおいて最も重要となるジャッジの育成が必要不可欠であり、継続的研修会による人材育成が喫緊の課題であった。

2 平成 29 年度の取組

○ 平成 28 年度までの取組を受けて、継続的な研修会を通した人材育成を可能とするために、エントリー校の校長と県教育委員会高校教育課が協議し、交流会と人材育成のための研修会を高校教育課の主催とし、参加教員の公務性を担保するとともに各校での継続的な人材育成と授業改善を可能とした。

○ 研修内容としては、即興型英語ディベートを活用して英語の授業改善を行うことを目的として、校長推薦による教員に対して年間 7 回の研修会を実施し PDA 認定教育ジャッジ資格の取得を目指すこととした。

3 平成 29 年度取組の成果

○ 高校教育課主催としたことにより公務性が担保され、各回 20 名程度の教員が継続的に参加することができた。

○ 校長推薦によって公務で研修会に参加するため、参加教員のモチベーションも高く、多くの学校で、自身の授業での実践を教科内で共有し、教科全体への取組に拡大することができた。

○ また、高校教育課主催とすることにより、英語の指導主事も積極的に研修会に参加することができ、４技能指導法を研修会参加教員と一緒になって研究することが可能となった。

4 高校教育課主催として実施した意義

○ ４技能をバランスよく育成するためには校内で指導的役割を果たす教員に対しての継続的な研修が必要であり、それを推進する校長を支援するためには高校教育課主催が最も有効である。

○ 校長の研究会が行ってきた活動を高校教育課主催とすることにより、現場を支える校長と県教育委員会が一体となった取組を推進することができた。

3・1・2

変容する力（ＰＤＡのお力を頼りにして）

神奈川県立柏陽高等学校　校長　井坂秀一

先日、「校長！ＰＤＡ遠隔ディベート出来ました。相手は長野の松本県ヶ丘高校です。でも、負けました」と英語科教員が校長室に飛び込んできた。同校は昨年度全国大会の優勝校と聞き、随分大胆な挑戦をしたものだと思いつつ、興奮気味に報告をする二人の教員の姿に圧倒的な頼もしさを感じ、無性に嬉しくなったものである。

本校は、今（平成 29）年度、全国大会に初めて参加させていただいた。生徒は二勝二敗（37 位／全 64 校）、教員三名（岩本、廣瀬、十川）はジャッジとして参加、また、特別に「教員ジャッジ最多出場賞」をいただいた。うち二名はさらに世界交流大会のジャッジとして認められ、一名は大阪に参じた次第である。

実は、二年前には即興型英語ディベート、ＰＯＩ…、いや失礼ながら「ＰＤＡ」の存在さえ十分に承知していなかった。平成 28 年度本校着任、これまでの取組みを踏まえ学校のグランドデザインを策定。「～次代を創る・リードする人材の育成～　将来の国際社会で活躍する人材の育成を目指し……。」である。知識基盤社会といわれる 21 世紀、グローバル化の進展する中にあって、柏陽が育みたい生徒像の明確化であった。とはいえ、海外修学旅行、語学研修、英語に特化した学校行事等々の取組みを進める中、あらためて「国際社会で活躍する人材の育成」とは？身に付けさせたい力とは？……の思いであった。

今年度、ＰＤＡの全面的なご支援、県教委の配慮もあり、県立十数校の教員が英語４技能指導法研究の研修を数回実施した。たまさか本職がその上組織のグローバル教育研究ＷＧの代表を務めた。本校教員が実践中模索中の４技能向上に向けた授業展開、彼らの高いポテンシャル、高大接続システム改革への対応等…それらが相俟って、この研修を機軸に校内での切磋琢磨、授業改善、放課後遅くまでの生徒への指導等。校長としては、時折様子を窺い、ただ見守るだけであった。即興型ディベート導入により、生徒の学びに向かう姿勢は確実に変容し、その変容ぶりに教員たちはさらなる変容（進化）を遂げていったように感ずる。

即興型ディベートにより身に付く力は、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテーション力、コミュニケーション力とある。これからの時代に求められる学力そのものであろう。同時にディベートをとおして、チーム内、相手チーム、ジャッジ、運営の方々等がお互いに繋がること、出会うこと（邂逅）をとおして、お互いに変容していくことが出来る（人は人によってのみ変わることが出来る）、グローバル社会に生きる者としては大切な場、繋がることが出来る力は貴重だと言えよう。

最後に、このようにＰＤＡと繋がらせていただいたことは、本校教育の推進にあたり、確かなバックボーンとなっていただけたものと感謝する次第です。また、現在、本校教員は次年度「授業導入優秀賞」を目指すと力強い宣言をしていることを報告させていただきます。

3・1・3

Teach High-level English Communicatively

神奈川県立柏陽高等学校　教諭　廣瀬彩乃

「コミュニカティブに受験英語を教える！」。県教委主催の英語教育改善プランの一つである「英語教育アドヴァンスト研修」の修了後、フォローアップ研修として、県立国際言語文化アカデミア助教とのやり取りの中で設定した、自らへの今年度の課題である。

昨年度は、1 年生に対し、英語を話す環境づくりに力を入れた。授業を通して、生徒のコミュニケーションへの意欲は目に見えて向上した。一方、教員・生徒ともに多少の物足りなさも感じるようになっていた。それは、CEFR でいう「やり取り」に終始し、スピーチやプレゼンテーション等の「発表」活動が疎かになっていたからかもしれない。彼らの内的成長や受験という命題への意識の高まりに伴って、より社会的・学術的な話題等への好奇心が強まっていたからかもしれない。

PDA や即興型英語ディベートと出会ったのは、ちょうどそんな思いの渦中にいる頃だった。幸運にも、今年度使用教科書である *Unicorn 2*（文英堂）に“The Debate Girls”という課があり、前述の助教のアドバイスのもと、年間を通してディベートを取り入れた授業を実践することに決めた頃でもあった。

即興型英語ディベートは、英語教員として現状を打開するための唯一かつ最善の方策であった。ディベートトピックと教科書の内容とを関連させることで、授業は全てディベート実践への足場掛けとなる。単元の最後にディベートが控えていると分かれば、生徒は自ら教科書の内容を多角的視点で捉えようとし、知識・理解が深まっていく。聞き手やジャッジに伝わるよう試行錯誤しながらスピーチすることを通して、気づけばプレゼンテーション能力も向上している。POI ではまさに即興のやり取りが求められるため、CEFR で提示されている二種類のスピーキング能力が同時に培われていく。「ディベートのおかげで関連する話題の長文問題が読みやすくなった」「英検のライティング問題がディベートトピックと被った。びっくりするくらい高得点をもらえた」という生徒の声が示す通り、現行の大学入試を見据えなければならない現場のニーズにも、申し分なく適合している。

生徒とともにディベートにのめり込んだ一年間を過ごすことができたのは、本校校長の全面的な支援、県教委による研修の企画・運営、そして何より複数回にわたり研修を実施してくださった PDA のお力があったからこそである。研修会を通して、ディベート自体の難しさや楽しさだけでなく、教育的効果、授業への導入例を提示していただいたことは、今年度、さらには来年度以降の授業展開の軸に大きく影響を与えてくれた。

英語 4 技能指導法研究の研修、PDA 全国大会や世界交流大会を通して出会った県内外の熱意溢れる教員とは、今でも情報交換を行い、互いに高め合い続けている。この研修を通して得たかけがえのない宝物たちを胸に、今後も自己研鑽を重ね、“Teach High-level English Communicatively”を実践していきたい。

3・1・4

ＰＤＡ即興型英語ディベートの研修会・大会ジャッジに参加して感じたこと

神奈川県立厚木高等学校　　公民科　林　弘一

４年前、当時の佐藤校長に神奈川県でＰＤＡ即興型英語ディベートの練習会・ディベート大会の話を伺い“即興型英語ディベート”というものを始めて知りました。神奈川県でディベート大会があるのであれば優勝しかないと思い、国際交流イベントに参加していた１・２年生の生徒数名を集め練習を始めました。ところが、私は公民科（政治経済）の教員ですので“即興型英語ディベート”というものが全くわかりません。ですので、他校のいろいろな先生方にいろいろと教えていただきました。

即興型英語ディベートを始めてからは、生徒の中に変化が表れてきました。英単語テストがあるから単語を覚えるのではなく、「次のディベートのスピーチで使うために単語を覚える」「次のディベート大会で勝つために単語を覚える」という感じです。これは、私の今までの教員生活（20 数年?）で見たことがない現象で、正に“主体的”です。また、普段新聞も読んだことのない生徒が、ニュース・新聞に興味を持ち、いろいろな立場の人の意見をインターネットで集めてきて仲間と議論を始める。これは、正に“対話的”で“深い学び”です。これもまた、今までにない現象です。ただ単に、“〇〇事件・問題があったね！”というだけでしたら今までにもありましたが、“〇〇事件・問題”についてのいろいろな視点の情報を集め、仲間と多角的に検討し、仲間の意見に耳を傾け、それをノートに書き覚えようとしています。特に対立する意見を集めてくるのが画期的です。（Gov・Opp どちらの立場になったとしても使えるようにということです。）

そして４年間程やってきてわかったことは、英語４技能を飛躍的に上達させるには、費用対効果を考えた場合、“即興型英語ディベート”しかないということです。さらに、英語４技能だけではなく、論理的思考能力、仲間と議論する力、現代社会への興味関心、人前で英語を話す度胸、生徒の友好関係の広がりなど、ジャッジをする教員の指導力向上など、付随した効果もかなりあります。

ジャッジに関しては、当然ですが４年前は全くの初心者（今でも似たようようなものですが、）でした。それから、多くの先生に教わり、いろいろなことがわかってきました。もしジャッジを教員がやるとすれば“ジャッジは先生を鍛える”ということです。ＰＤＡの全国大会では、ジャッジもジャッジされます。つまりジャッジをしているようで、生徒全員にジャッジをされているわけです。これは、通常の学校では、ありえないことです。ですが、その中で鍛えられることが多いと思います。まず、“良いところを褒める”“負けたチームの生徒に納得いく説明をする”ことが求められます。ここが最高に難しいポイントです。つまり、どんな生徒に対しても良いところを見つけ褒め、同時に本人が自主的に取り組めるようアドバイスをするということです。この感覚は、学校での全ての指導する場面に活かせると思います。通常の学校生活では、授業・クラス・部活動・友達関係について不平・不満を持っている生徒が多くいます。そこで、その生徒を認めて、その生徒を納得させ、今後も生徒が学校生活に意欲的に取り組むようにさせなければならない場面で、確実に役立ちます。つまり、“即興型英語ディベート”は、生徒のいろいろな能力が向上すると共に、教員の能力も向上させていることになります。

今年の１月 19.20.21 日、大阪での PDA 世界大会にジャッジとして参加させていただきました。ここでのジャッジの中で、渋谷学園渋谷（日本で優勝）対 UK のジャッジをさせていただきました。おそらく私の人生の中で最高に緊張した(?)場面でした。このラウンドの結果はさておき、その後の日本人高校生のラウンドが楽になり、少しだけ余裕ができました。また、世界大会のジャッジは、どのようなことを準備しておかないかがわかりました。このような素晴らしい貴重な場面を頂き、PDA 中川先生・スタッフの皆様には大変感謝をしております。今後、ジャッジとしてはまだまだ未熟ですので、勉強していきたいと考えています。最後に、まだ“即興型英語ディベート”を導入いていない学校がありましたら、是非導入することをお勧め致します。

３・１・５

PDA 教員研修会から得たもの

神奈川県立横浜緑ケ丘高等学校　近藤 飛鳥

・研修や交流大会への参加を通して、ディベート・ジャッジのスキルにおいてどのように成長を感じたか

研修で初めて即興型英語ディベートに挑戦したときの衝撃は忘れられない。頭が真っ白になってしまい、相手の言った意見に対してまったく反論できなかった。あまりにも悔しくて、気付いたらその日の夜、なぜ頭が真っ白になったのかを自分自身で分析をしていた。すると、私にはとっさに英語を話す力だけでなく、論理的に考える力が足りてないということに気づいた。そもそも日本語でも普段から論理的に考える習慣がなかった。

研修では毎回、ディベートやジャッジの力を高めるための講義に加え、実践の機会が与えられた。講義を通して、効果的な論の組み立てや反論の仕方を学び、学んだことを実践の場で試すことで、その有用性を実感することができた。ディベートのやり方が分かってくると、実践の時間が楽しくなり、ジャッジからもらえるアドバイスが楽しみになってきた。研修の度に実践の機会とジャッジから的確なアドバイスをもらえるので、自分自身の英語運用能力が高まっていることを感じることができ、ディベートをすることへのモチベーションも高まった。

私と同じように即興型英語ディベートに魅力を感じた同僚も多く、仕事帰りに集まって、一緒にディベートの練習をするまでになった。また、神奈川の高校の交流大会において、教員エキシビションに出場させていただけることになり、緊張する場面でも堂々と話せるようになりたいと思うようになった。本番に向けて、自分なりのスピーチ・シートを作ってみたり、考えたことをとっさに英語で言う練習をしたりすることで、普段よりたくさん英語と向き合うことができた。

今振り返ってみて感じるのは、研修のおかげで普段から論理的に物事を考えるようになり、より積極的に英語を学んだり使ったりするようになったことだ。挫折から始まった即興型英語ディベートは、私の日々の過ごし方や英語への接し方を変え、英語教員としての成長へとつなげてくれた。

・PDA 認定教育ジャッジを目指せたモチベーション、合格できた秘訣

PDA 認定教育ジャッジを目指せたモチベーションは、ディベートで自分の考えを伝えられなかった悔しさと、伝えられるようになりたいという願望から来ている。ディベートでうまく話せずに悔しい思いをしたとき、もっとルールや役割を理解する必要があると感じた。それらを効率的に学ぶは、PDA 認定教育ジャッジを目指すのが早いのではないかと考え、受験を決めた。

試験には、ディベートの実技、ジャッジの実技、筆記と３種類ある。実技に関しては、研修で回数を重ねてきていたので、試験でも同じような気持ちで取り組むことができた。緊張せずに力を発揮できたのは、交流大会などを通して人前で話すことに慣れることができたからであろう。数をこなすことで、ディベートに対する不安がだんだんと自信に変わっていった。筆記に関しては、基本的なルールやジャッジの役割に加えて、必要とされる教育的配慮まで答えられたことが、合格の秘訣だったと考える。これらを自然に考えつくことができたのは、即興型英語ディベートを授業に取り入れてきて、生徒の様子を間近で見てきたからだ。生徒に混ざり、実際にディベートやジャッジをすることで、生徒の抱える困難点やジャッジとしての心得を理解することができた。また、生徒が喜んでディベートをしている姿は、即興型英語ディベートについてもっと深く学ぼうという私自身のモチベーションにつながった。

最後に。私自身が経験してきた悔しさや喜び、失敗や成功を含めてすべてを生徒に還元しようと考えることで、前向きに研修や認定試験に取り組むことができた。そうしようと思えたのは、一人の英語学習者として即興型英語ディベートに魅力を感じることができたからである。今回そのような魅力的な活動に出会わせてくださった PDA のみなさまに感謝申し上げたい。

３・２　有識者コメント

即興型英語ディベート及びＰＤＡ認定教育ジャッジ制度の有用性について

熊本県立八代高等学校・八代中学校　校長　山本　朝昭

１　即興型英語ディベートの魅力

英語教育の指導改善と高度化を図る取組として、即興型英語ディベートの授業導入は最も有効な手段のひとつである。本言語活動においては、学習した語彙・表現等の知識を用いて、読む・書く・聞く・話すの４技能を統合的に活用し、活動を繰り返すことで言語の運用能力を確実に高めることができる。また、身近な話題でありながら幅広い話題について論じることで、社会に対する関心を深め、さらにチームとして協働することによるコミュニケーション力の育成にも貢献する。

即興型英語ディベートの英語教育における有効性と魅力に着目し、前任校と現任校において組織的に授業導入を実践した成果を踏まえ、今後の課題として認定教育ジャッジ制度の有用性を強調したい。

２　即興型英語ディベートが授業導入に適切である理由

本言語活動には次のような利点があり、授業との親和性が極めて高い。

（１）授業１単位（５０分）で完結できること。
（２）授業１単位のなかに、４技能の全てが織り込まれる４技能統合モデルであること。
（３）「主体的・対話的で深い学び」を促進するコミュニケーションゲームであること。
（４）「何を知っているか」にとどまらず、「英語を用いて何ができるか」の実践モデルであること。
（５）ゲーム的要素が生徒の意欲を高め、英語による活動を楽しめること。
（６）活動量が活動の質を確実に高めること。

３　ＰＤＡ認定教育ジャッジ制度の有効性

（１）英語科教員の資質能力向上（ジャッジの育成）

今後、即興型英語ディベートの取組が全国的な広がりを見せ、その効果が英語教育全体に大いなる成果をもたらすことを信じて疑わない。しかしながら、これまで述べた本言語活動の利点を生かし、授業導入を推進していくためには、実践する英語科教員の指導力を向上させること、指導体制を整えることが大前提でもある。特に、教育的配慮を伴って指導できるジャッジの育成は急務である。ジャッジ認定によって身についたスキルは、他の領域においても転移可能性が高いはずであるから、求められる指導力の指標としてジャッジ認定制度を活用したい。

（２）教育的配慮の必要性

即興型英語ディベートを授業に導入するにあたって最も大切なことは、生徒が初めて体験するその触れ合いの瞬間を、生徒一人一人にとって意味のあるものにできるかどうかということである。実際、ほとんどまったく話せないで無言の状態でいる生徒、話そうとしても身振りだけで話せずいらだちを隠せない生徒、相手の言っている英語が十分に理解できない生徒など、様々である。そのような場合であっても、ひとりひとりを適切にエンカレッジできるコメントスキルが教員（ジャッジ）にあるかどうかが、その後の活動の成否を握るといっても過言ではない。ともすれば、こうすれば良かった、ここがまずかった等、マイナス面に偏向したコメントによって、生徒の英語嫌いを助長する嫌いさえある。勝敗の理由を論理的に説明できる力だけでなく、建設的なコメントを述べることのできるジャッジの育成を図る視点が、生徒の英語力の醸成につながり、英語科教員の指導力向上に直結すると考えられる。

（３）現任校での実践例

即興型英語ディベートを授業導入するにあたり（中学３年生全クラス、高校１年生全クラス）、第１回目の授業において、ＰＤＡ認定の経験者５名にジャッジを担当していただいた。５名が１クラスの授業に入り、１０チーム（１チーム４人）５試合をジャッジ。１，５日間かけて、中学３年２クラス、高校１年６クラスのジャッジを務めてもらった。これで、全ての生徒たちが初めてのディベートの授業で、経験ある認定ジャッジからコメントをもらったことになる。建設的なコメントと公正な評価をどのように生徒に届ければ良いのか、本校教員にとって貴重な研修機会となった。

下表１は、その時のアンケート結果であるが、楽しくなかったという割合が極めて少ないことに驚かされる。楽しくなかったと回答した実際の人数は高校で１０人未満、中学で１人であり、少数であるがゆえに事後指導によるフォローアップが可能であった。

表１　平成２７年度　即興型英語ディベート　第１回授業　アンケート結果

	生徒人数	とても楽しかった	楽しかった	ふつう	楽しくなかった	全く楽しくなかった
高校１年	214	31.3%	46.7%	18.2%	3.3%	0.9%
中学３年	74	33.8%	48.6%	16.2%	1.4%	0.0%

平成２７年と２８年にはＰＤＡの指導を受けて実施したが、平成２９年は本校教員のみで実施できる環境が整った。下表２は、研修を受けた本校教員、２年間のジャッジ経験のある本校教員のみで実施したアンケート結果である。平成２７年度の数値にはやや及ばないが、２年間の授業導入によって指導力向上の成果が上がっている。以上の結果から、適正なジャッジ能力を身に付けるための認定制度の有効性が推察できる。

表２　平成２９年度　即興型英語ディベート　第１回授業　アンケート結果

	生徒人数	とても楽しかった	楽しかった	ふつう	楽しくなかった	全く楽しくなかった
高校１年	220	24.6%	37.3%	29.6%	6.8%	1.8%

（４）認定ジャッジを核とした組織的指導体制の構築

即興型英語ディベートを授業に導入するにあたっては、「チームとして導入できるか」が鍵となる。学校全体、学年全体など英語科教員がチームとして組織的に関われる体制を整えることである。個人の技量で導入しても、年度が変わり、クラスが変われば、またゼロからの指導となり、発展的、連続的な指導ができない。一方で、組織で取り組んでいれば、クラスが変わり、教員が入れ替わっても、継続した指導が可能である。認定ジャッジを核とした組織的指導体制を確立することによって、教員相互が指導のノウハウを共有し、教員の資質向上がもたらされる故、ＰＤＡ認定教育ジャッジ制度の効果的な活用が期待される。

3・3 全体の考察

アンケート結果より、単発研修においても、継続研修においても、即興型英語ディベートに実際に教員が参加することで、初めての気づける要素が多くあることがわかる。継続研修では、毎回の学習ポイントを踏まえ、毎回の学びがあることも分かった。さらに、研修結果を受け、授業への導入を早速実施された教員が多くいた。これにより、教員による独りよがりな学びではなく、自身の学びを教室へ還元できることも示された。

また、即興型英語ディベートを教員自身がはじめて実践することで、反省点を自ら感じ、スキルの向上を図るモチベーションが生まれることが考えられる。学び続ける過程において、目標の一つとして、客観的な指導力の指標となる PDA 認定教育ジャッジ制度が位置づけられる。

参加者の声にもあるように（「英語４技能を飛躍的に上達させるには、費用対効果を考えた場合、“即興型英語ディベート”しかないということです。」）、即興型英語ディベートの効用には非常に多くの賛同がある。教員の研修を通してそれを実感し、その効果的な指導力を身に着ける研修をより多くの教員へ広げることが今後の課題の一つと言える。有識者コメントにあるよう（「認定ジャッジを核とした組織的指導体制を確立することによって、教員相互が指導のノウハウを共有し、教員の資質向上がもたらされる故、ＰＤＡ認定教育ジャッジ制度の効果的な活用が期待される。」）、PDA 認定教育ジャッジから派生する効果を活かせる制度設計も重要であると考えられる。

4. 提言

即興型英語ディベートの単発研修および継続研修の結果より、アクティブラーニング型の本研修は、多くの教員にとって楽しみながら意欲を高められる方法であることが分かった。また、継続研修では、着実に教員のディベートに対する実践および指導のスキルが向上することが示された。さらに、これらによる教師力の向上は、授業を通して生徒に還元される。

そこで、今後の課題としてこのような研修をより多くの教員が受けられるよう環境を整備していくことが重要といえる。

提言として、以下の 3 点を挙げる。

① 即興型英語ディベートの教員研修開催にあたり、教員が公務で参加可能となるよう教育委員会や校長が後押しをすること。

② 教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組みとして、表彰や PDA 認定教育ジャッジ制度を活用すること。

③ より多くの地域の教員が研修に参加できるようオンラインシステム等を用いて効率化を図ること。

おわりに

本事業では、「即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築」をテーマに多くの関係者の皆様と協同して、教員の即興型英語ディベートに関する研修を行いました。研修内容の深化はさることながら、常日頃多忙な教員の皆様に、適切な手続きで、適度な頻度で、適確に自ら学び続けるモチベーションを育めるよう、制度設計していくことが重要であると感じます。本事業で得られた知見が、今後多くの地域において活用されましたら幸甚です。

約一年にわたり、本調査研究および報告書作成において、貴重なご意見、ご助言をくださりました教育委員会はじめ多くの教員、関係者の皆様方にあらためて心よりお礼申し上げます。

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）
代表理事　中川 智皓

【PDA 認定】教育ジャッジについて

一般社団法人　パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

パーラメンタリーディベートを社会に広く効果的に推進するため、PDA ではジャッジの認定制度を導入します。特に、中学・高等学校を中心とした授業におけるパーラメンタリーディベートの導入をサポートしていきます。

【PDA 認定】教育ジャッジとは、主に中学・高等学校の授業で使用されるパーラメンタリーディベート（即興型英語ディベート）のフォーマット（ここでは、ショートと呼びます）の下、教育的な指導ができる認定ジャッジのことです。PDA は、授業や公式大会においてジャッジが求められる際、認定を受けた教育ジャッジを推薦します。

【教育ジャッジ認定試験の受験資格】

1. 大学生以上。PDA 個人会員であること。
2. ディベートおよびジャッジの実践経験
   (1) ディベート実践（ショート）を 6 回以上。
   (2) ジャッジ実践（ショート）を 6 回以上（内、3 回以上を PDA 公認の授業現場において実践）
   ※PDA およびそれに準ずる研修会での実践とします。

【認定試験】

(1) 筆記試験
- ルール
- ジャッジとしての心構え等

(2) ディベート実技（ショート）
- 基本的な構成のスピーチができる。
- タイムマネージメントができる。
- POI を 1 回以上出せる。
- POI を 1 回以上受け、適切な返答ができる。
- アイコンタクトがある。（スピーチ時間の 50%以上）
- 説明において大きな論理の飛躍が見られない。

(3) ジャッジ実技（ショート）
- 司会進行ができる。
- 授業時間を考慮したタイムマネジメントができる。
- 勝敗を出せる。
- 論理的にある程度納得できる勝敗の理由を述べられる。
- 建設的な個人コメントを述べられる。
- 教育的配慮に欠けない。

ディベートのルール

(1) 概要

ある 1 つの論題が与えられ，肯定側チーム(Government)と否定側チーム(Opposition)に分かれ，一般聴衆であるジャッジを説得する。肯定側か否定側かは主催者によって決められ，ディベータ自身で選ぶことはできない。より説得力（議論の中身，説明の仕方など）があったチームが勝ちとなる。

(2) ディベータの人数

各チーム 3 名の計 6 名。それぞれの役割名と内容を図 1 に示す。

(3) 準備時間（Preparation Time）

15 分

(4) スピーカの順番，時間

スピーチの順番は図 1 の矢印の通りである。スピーチ時間は，3 分または 2 分である。ただし，前後 30 秒は許容範囲である。ジャッジはスピーチの終了時間の 30 秒前に 1 回ノック，スピーチ終了時間に 2 回ノック，終了時間 30 秒後にはノックをし続ける。(例えば，3 分のスピーチであれば，2：30 で 1 回ノック，3:00 で 2 回ノック，3:30 でノック継続)

スピーカとスピーカの間には，準備時間はない。スピーカはジャッジに呼ばれれば，速やかに演台に移動する。

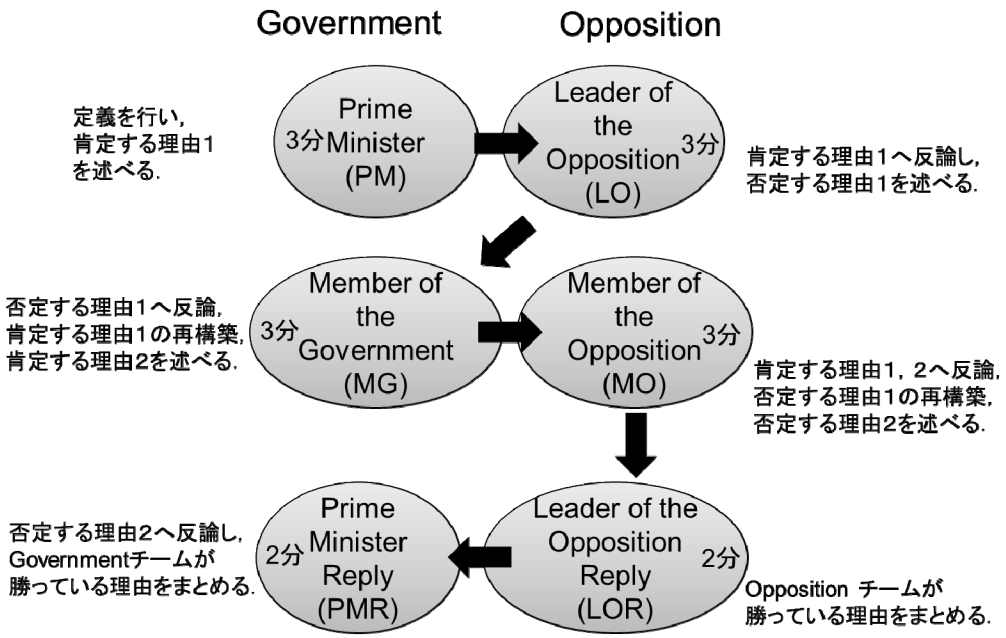


図 1　ディベート概略図

(5) スピーチ内容

最初の 4 つのスピーチを Constructive Speech（立論），後の 2 つのスピーチを Reply Speech （まとめ）という。Constructive Speech ではどのような論点を述べてもよいが，基本的に Reply Speech では，Constructive Speech で述べていない新しい論点は出せない．

(6) 質疑応答（POI, Point of Information）

相手チームのスピーチ中に，質問やコメントを 15 秒以内で発言することができる。それを Point of Information (POI)といい，“On the point, sir”や“POI”などと声をかけ，質問する．質問を受けるか否かは，スピーカが決めることができ，受ける場合は“Yes, please.”，受けない場合は“No thank you.”などのように答える．

なお，POI はいつ行ってもよい。ただし，POI をして一旦断られた場合は，その 15 秒後以降から再度 POI をすることができる。POI の間もストップウォッチの時間は止めない。

(7) ディベート終了後

ディベートラウンドが終了すれば，対戦相手と握手を交わす。

(8) ジャッジ

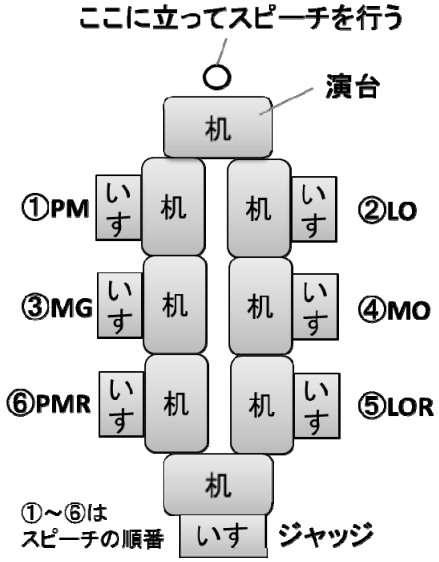
ジャッジは，新聞を読んでいれば分かる一般的な知識を持つ人と想定する。個人的な考え，専門知識，偏見をできるだけ排除し，客観的に判定する。基準は主に「内容」と「表現」の 2 つである。

＜内容＞

- 主張に理由があったか
- 反論があったか
- 例やデータを用いて，十分に説明をしているか
- POI で積極的に議論しているか

＜表現＞

- はっきりと分かりやすい言葉で話しているか（声の大きさ，スピード，アイコンタクト，身振り手振りなど）
- 構成は分かりやすいか（論点の順番，ナンバリング，サインポスト）
- スピーカの役割を果たしているか



(9) その他

- スピーチは前で立って行う。
- スピーチ中は，チームメイトと話せない。
- POI を行う時は立つ。断られれば座る。
- スピーカの順番は，論題発表前に決めておく。

©大阪府立大学工学研究科　中川智皓

スピーチシート

Prime Minister (PM)（肯定側１番目）

挨拶　Hello everyone.

お題　Today's topic is

論題を記入する

定義　We define the motion as follows.

定義を必要とする事柄があれば定義する

肯定ポイントの数の確認　We have two points.

肯定ポイント１の名前　The 1st point is

肯定ポイント 1 の題名を記入する

肯定ポイント２の名前　The 2nd point is

肯定ポイント 2 の題名を記入する

肯定ポイント１の説明　I will explain the 1st point

肯定ポイント 1 の題名を記入する

We believe that

肯定ポイント 1 の具体的な説明を記入する

論題を記入する（肯定）

結論　Therefore,

終わりの挨拶　Thank you.

Leader of the Opposition (LO)（否定側１番目）

挨拶　Hello everyone.

否定側の方針確認　We believe that

論題の否定文を記入する

肯定ポイント１への反論　Let me rebut what the Government team said.

They said

PM で述べられた肯定ポイント 1 を記入する

However,

肯定ポイント 1 への反論を記入する

Therefore,

肯定ポイント 1 が成立しないという結論を記入する

否定ポイントの数の確認　Next, let me explain our points. We have two points.

否定ポイント１の名前　The 1st point is

否定ポイント 1 の題名を記入する

否定ポイント２の名前　The 2nd point is

否定ポイント 2 の題名を記入する

否定ポイント１の説明　I will explain the 1st point

否定ポイント 1 の題名を記入する

We believe that

否定ポイント 1 の具体的な説明を記入する

結論　Therefore,

論題の否定を記入する

終わりの挨拶　Thank you.

評価項目

高等学校学習指導要領　英語表現Ⅰ、Ⅱの目標（抜粋）「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。」
「論理の展開」＝内容、「表現の方法」＝表現の2つに分けて、評価する。

内容	文部科学省　学習指導要領との対応
主張に理由があったか。	英語表現Ⅱ2(1)イ　論点や根拠などを明確にする
反論があったか。（PMは除外）	英語表現Ⅱ2(1)ウ 発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べ合う。英語表現Ⅱ2(1)エ　相手を説得するために意見を述べ合う。
簡単な例やデータを用いる等で、十分に説明をしていたか。	英語表現Ⅱ2(1)ウ　学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。
論題との関連性を考慮できていたか。	英語表現Ⅱ１目標　事実や意見など多様な観点から考察　　英語表現Ⅱ2(1)ア 「与えられた条件に合わせて」、即興で話す。

表現	文部科学省　学習指導要領との対応
はっきりと分かりやすい言葉で話しているか。（声の大きさ、スピード）	英語表現Ⅰ2(2)ア　話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと
Non-Verbal Expressionで聴衆を意識しているか（アイコンタクト、身振り手振り）	英語表現Ⅱ2(2)ウ 「発表の仕方」や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。
構成は分かりやすいか（論点の順番、ナンバリング、サインポスト、タイムマネジメント）	英語表現Ⅱ2(1)ア 「伝えたい内容を整理して」論理的に話す。
スピーカの役割を果たしているか。	英語表現Ⅰ2(1)ア　目的に応じて簡潔に話す

本大会におけるPOI賞について

POI（質疑応答）を通した議論参加への積極性を評価します。

POI	文部科学省　学習指導要領との対応
POIで質問・コメントを出すタイミング、回数、その内容において、 最も評価できる人をPOI賞に選んでください。	英語表現Ⅰ、Ⅱ、英語会話　積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成 英語表現Ⅱ2(1)ウ 発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べ合う。

評価基準

内容	基準	例
0	一言も発しない。	
1	ほとんど何も言っていない。	・挨拶のみ、論題を読むだけ。
2	大部分の内容が分かりづらい。説明量がかなり少ない。	・内容が、主張の1～2文のみ。
3	内容に分かりづらい部分があり、評価項目の半分以上が全くできていない。	・理由がない。反論がない。論理が飛躍している。などの問題点が多く見られる。 ・実質的なスピーチ時間が30秒以下。
4	内容に分かりづらい部分があるが、評価項目の半分程度が最低限できている。	・内容の質はともかく、何らかの理由がある。または何らかの反論がある。など話すべき事項の半分程度がなされた。 ・しかし、それ以上の説明が乏しく、内容が具体的ではない。
5	内容はほとんど分かるが、評価項目のうちできていない点が一部ある。	・論理がある程度通っている。 ・しかし、立論はできたが、反論ができなかった。立論や反論はできたが、論題との関連性は薄かった。反論はあるが、関連性がなく、反論ではなく「主張」になってしまっている。繰り返しが多い。等の問題点がある。 ・実質的なスピーチ時間が、2分半に満たない。
6	内容はほとんど分かり、全ての評価項目について、最低限できている。	・論理がある程度通っており、最低限の立論ができている。反論も関連性が認められる。 ・実質的なスピーチ時間が、2分半を満たす。
7	内容が分かり易く、全ての評価項目について、大体できている。	・論理が通っており、立論、反論が具体的にできている。論題との関連性もある。 ・PMの場合は、現状分析のある主張ができている。等
8	内容が分かり易く、評価項目の半分以上が効果的にできている。	・論理が通っており、効果的な立論と反論が目立つ。比較を入れて自分の主張を強めることができている。 ・PMの場合は、立論の際に、特にチームスタンス、丁寧な現状分析、比較を入れた説明ができている。等
9	内容が非常に分かり易く、評価項目のほとんどが効果的にできている。	・いずれの内容も具体的で、効果的である。説明すべてが非常に分かりやすい。 ・相手チームの視点を踏まえた分析で主張や反論を深めている。等
10	評価項目の全てが完璧にできており、内容に非の打ちどころがない。	・いずれの内容も完璧で、改善のコメントが特にない。

表現	基準	例
0	前に出ない。	
1	ほとんど聞こえない。	・声がかなり小さい。始終顔が下を向いている。またはスピーチシートで顔が全く見えない。
2	とても聞きづらい。	・声が小さい時間が多く、聞きにくい。顔は下を向いていることが多い。
3	聞きづらい部分があり、評価項目の半分以上が全くできていない。	・声が時々聞こえない。 ・ナンバリング、サインポストがない。どこについて話しているか分からない。スピーカの役割ができていない。
4	聞きづらい部分があるが、評価項目の半分程度が最低限できている。	・声が時々聞こえないこともあるが、大体の構成はできている。 ・棒読みが目立つ。
5	大体聞き取ることができるが、評価項目のうちできていない点が一部ある。	・声は聞き取ることができる。 ・構成、サインポスト、アイコンタクト、スピーカーの役割でできていない点が一部ある。
6	大体聞き取れ、全ての評価項目について、最低限できている。	・声は聞き取れ、最低限の構成、アイコンタクトができている。スピーカの役割も最低限果たせている。
7	聞きやすく、全ての評価項目について、大体できている。	・スピーチが聞きやすく、アイコンタクトや身振り手振りも大体できている。構成やスピーカの役割も大体できている。 ・落ち着いてスピーチができている。
8	聞きやすく、評価項目の半分以上が効果的にできている。	・堂々とスピーチができ、説得力の増す身振り手ぶりが目立つ。構成やスピーカの役割も効果的にできている。
9	非常に聞きやすく、評価項目のほとんどが効果的にできている。	・いずれの表現も効果的で、非常に聞きやすい。 ・ただし、マイナーエラーがある。
10	評価項目の全てが完璧にできており、表現の仕方に非の打ちどころがない。	・いずれの表現も完璧で、改善のコメントが特にない。

※マイナーエラー：タイムマネジメントの問題、単語の発音の間違いなど。

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）が実施した平成 29 年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

文部科学省初等中等教育局教職員課　公募
平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業　採択プログラム

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築」
平成 29 年度　成果報告書

発行　一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）
発行日　平成 30 年 3 月

599-8531　大阪府堺市中区学園町 1-1　大阪府立大学 工学研究科 中川研究室内
電話　072-254-9220
FAX　072-254-9904